

令和7年度

危機的な状況にある

言語・方言サミット

(八重山大会)

資料集

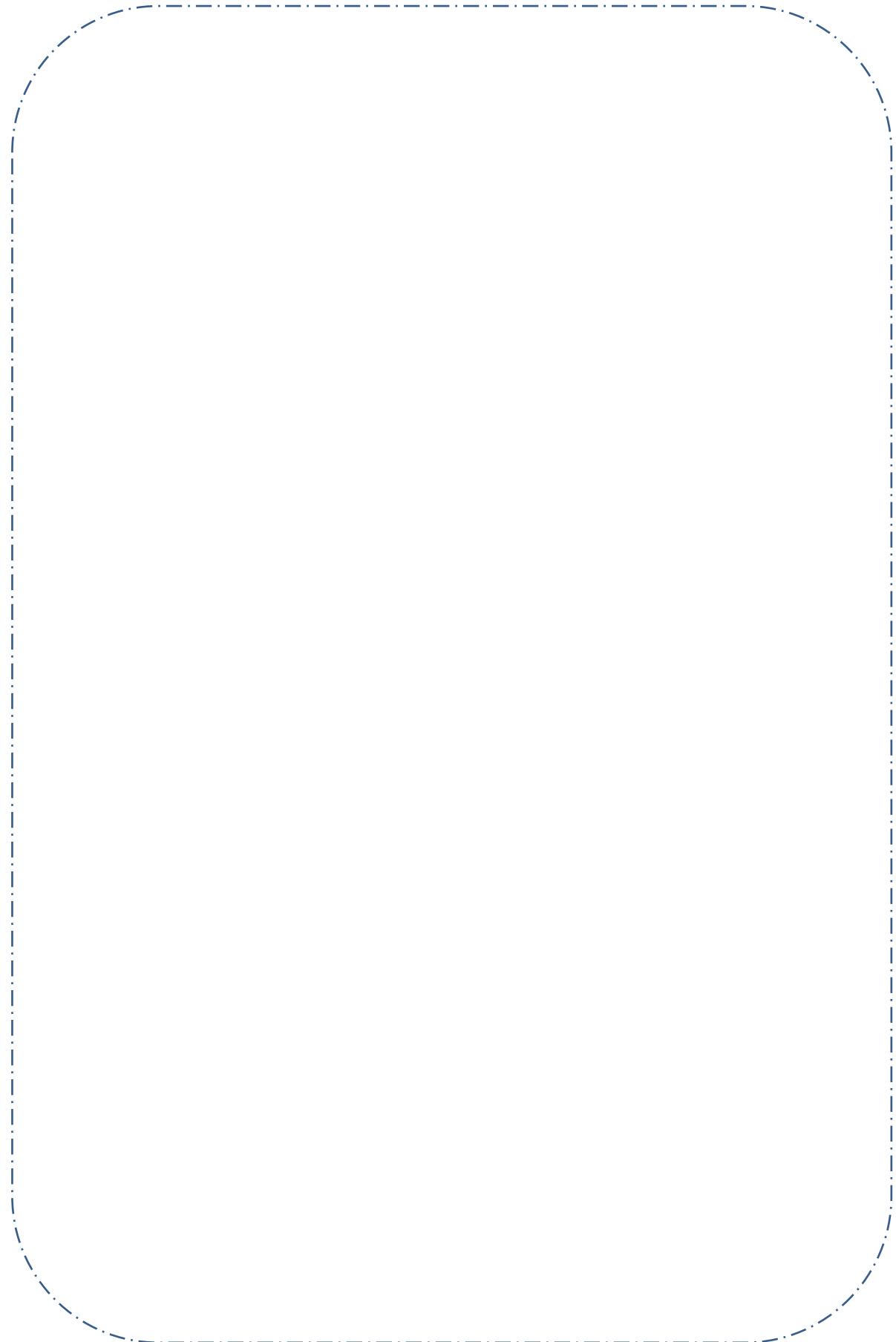
令和7年10月25日（土）10:00～17:45

10月26日（日）10:00～16:30

沖縄県石垣市 石垣市民会館 “大ホール”

主催・共催 文化庁、沖縄県、石垣市、石垣市教育委員会、竹富町、
竹富町教育委員会

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所、
国立大学法人琉球大学



目 次

趣旨	1ページ
日程及び登壇予定者	2ページ
“Atlas of the World’s Languages in Danger” (UNESCO2009) で消滅の危機にあるとされた日本国内の言語及び東日本大震災の被災地の方言	7ページ
危機的な状況にある言語・方言に関する文化庁の取組の展開	8ページ
消滅の危機にある言語・方言に関する施策の枠組み	9ページ
危機の度合いの判定基準	11ページ
危機的な状況にある言語・方言サミット（八重山大会）チラシ	15ページ
【10月25日（土）】	
オープニングアトラクション（スマムニラジオ体操、わらべうた、古謡）	17ページ
基調講演「八重山語の現状とその行方について：歴史的な視点を踏まえて考える」	21ページ
危機言語・方言の聞き比べ	39ページ
危機言語・方言による表現披露1（品取狂言、スマムニ方言劇「アンパルヌ ミダガマ」）	59ページ
ブース発表	65ページ

【10月26日（日）】

危機方言の現況報告	75ページ
八重山地方における取組報告	93ページ
アイヌ語の現況報告	95ページ
危機言語・方言による表現披露2（南部方言、アイヌ語）	105ページ
すまむに（方言）を話す大会	109ページ
大会宣言	111ページ

【趣旨】

我が国における言語・方言のうち、ユネスコが平成21年に発行した“Atlas of the World's Languages in Danger”で消滅の危機にあるとした8言語・方言及び東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の状況改善につなげるために、消滅の危機にある言語・方言に関する委託調査結果の成果や消滅の危機にある言語・方言を抱える各地域の取組状況等について広く知っていただき、文化の多様性を支える言葉の役割や価値について共に考える機会とする。

【後援】 株式会社八重山毎日新聞社、南山舎株式会社、
FMいしがきサンサンラジオ、石垣ケーブルテレビ株式会社、
株式会社八重山日報社、日本言語学会、日本方言研究会

【全体司会】

1日目 川平 孝子

2日目 照屋 寛文

【日程 及び 登壇予定者】

(敬称略)

10月25日(土)

- 10:00 オープニングアトラクション スマムニラジオ体操（ラジオ体操会）、
わらべうた（しゅまむに伝承研究会、川平こども園、新栄町こども園）、古謡（大浜古謡愛好会）
- 10:30 開会式
主催者・共催者挨拶 文化庁、沖縄県、石垣市、竹富町
- 10:45 基調講演
「八重山語の現状とその行方について：歴史的な視点を踏まえて考える」
国立国語研究所特任助教 セリック ケナン
- 12:00 休憩
- 13:00 危機言語・方言の聞き比べ
南部（八戸）：柾谷伸夫、新島（若郷）：宮川清み、八丈：川上絢子、
奄美（宇椈）：鈴木るり子、喜界（荒木）：中馬正登志、
沖永良部（田皆）：田邊ツル子、与論：菊秀史、国頭（今帰仁村謝名）：島袋幸子、
沖縄（那覇）：高良ひとみ、宮古（伊良部佐良浜）：普天間一子、
宮古（多良間）：島袋梅子、八重山（石垣四カ字）：黒島健、
八重山（石垣白保）：金嶺光江、八重山（竹富島）：大山榮一、
八重山（黒島）：宮良哲行、八重山（西表島）：川平永光、
与那国：田頭政英、アイヌ（樺太）：楠本スクシ
- 14:30 危機言語・方言による表現披露1
西表島・南祖納公民館「品取狂言」
石垣島・スマムニ広め隊 スマムニ方言劇「アンパルヌ ミダガマ」
- 15:30 休憩
- 15:40 ブースアピール～ブース発表
- 17:45 終了

10月26日（日）

10:00 開会

10:05 危機方言の現況報告 琉球大学客員研究員 石原 昌英

10:35 八重山地方における取組紹介 前石垣市教育委員 金城 綾子

11:05 アイヌ語の現況報告 国立アイヌ民族博物館研究員 深澤 美香

11:35 危機言語・方言による表現披露2

南部方言 昔コ語り 桝谷 伸夫

アイヌ語（弁論、歌謡、舞踊）

楠本スクシ、北原モコットゥナシ、豊川容子、川上亜万夢

12:40 休憩

13:40 すまむに（方言）を話す大会

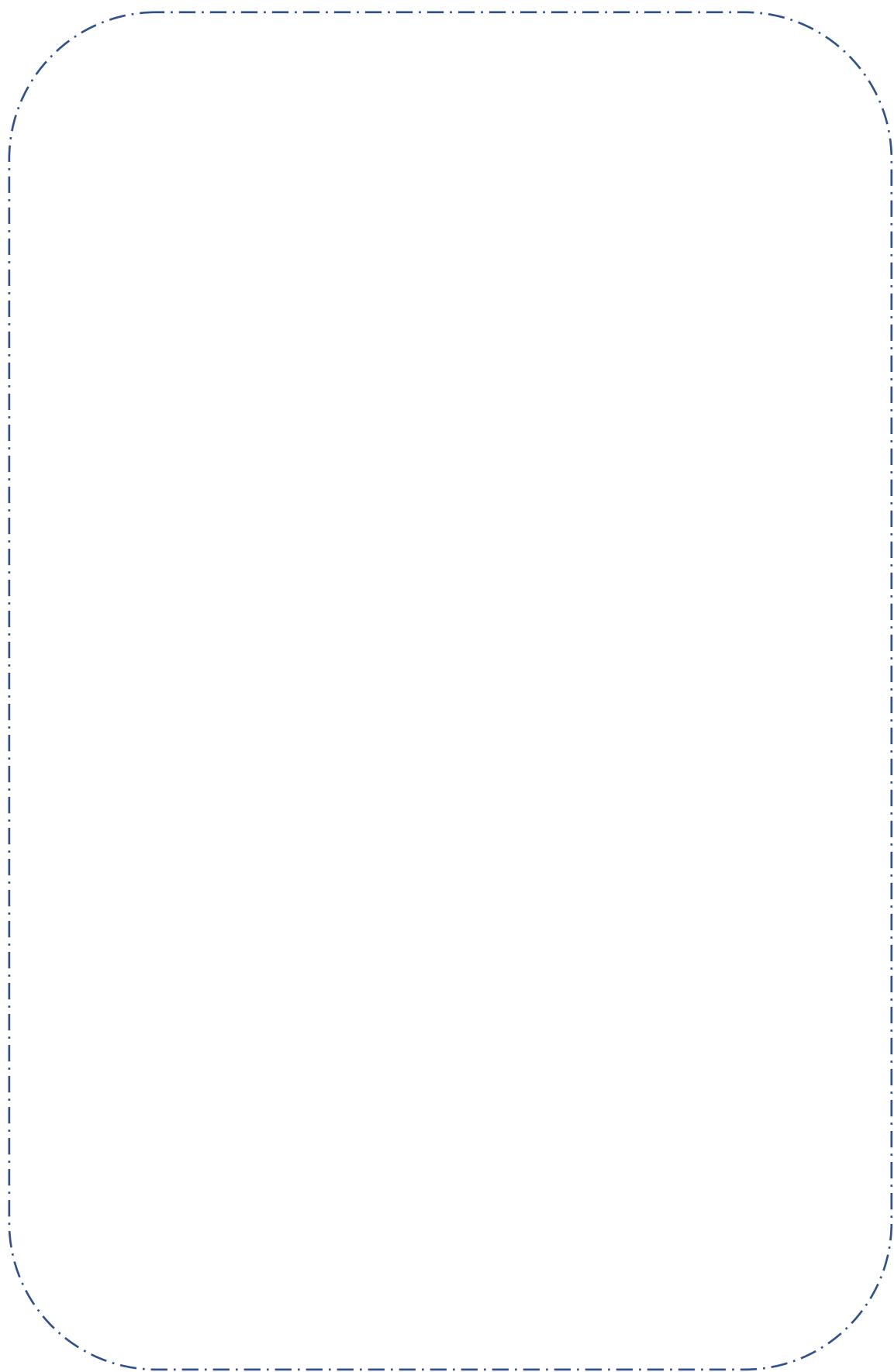
15:50 大会宣言・閉会式 ぴさいぶなりう会、平真こども園

喜界町教育委員会、石垣市教育委員会

16:30 終了

アンケートへの御協力をお願いいたします。

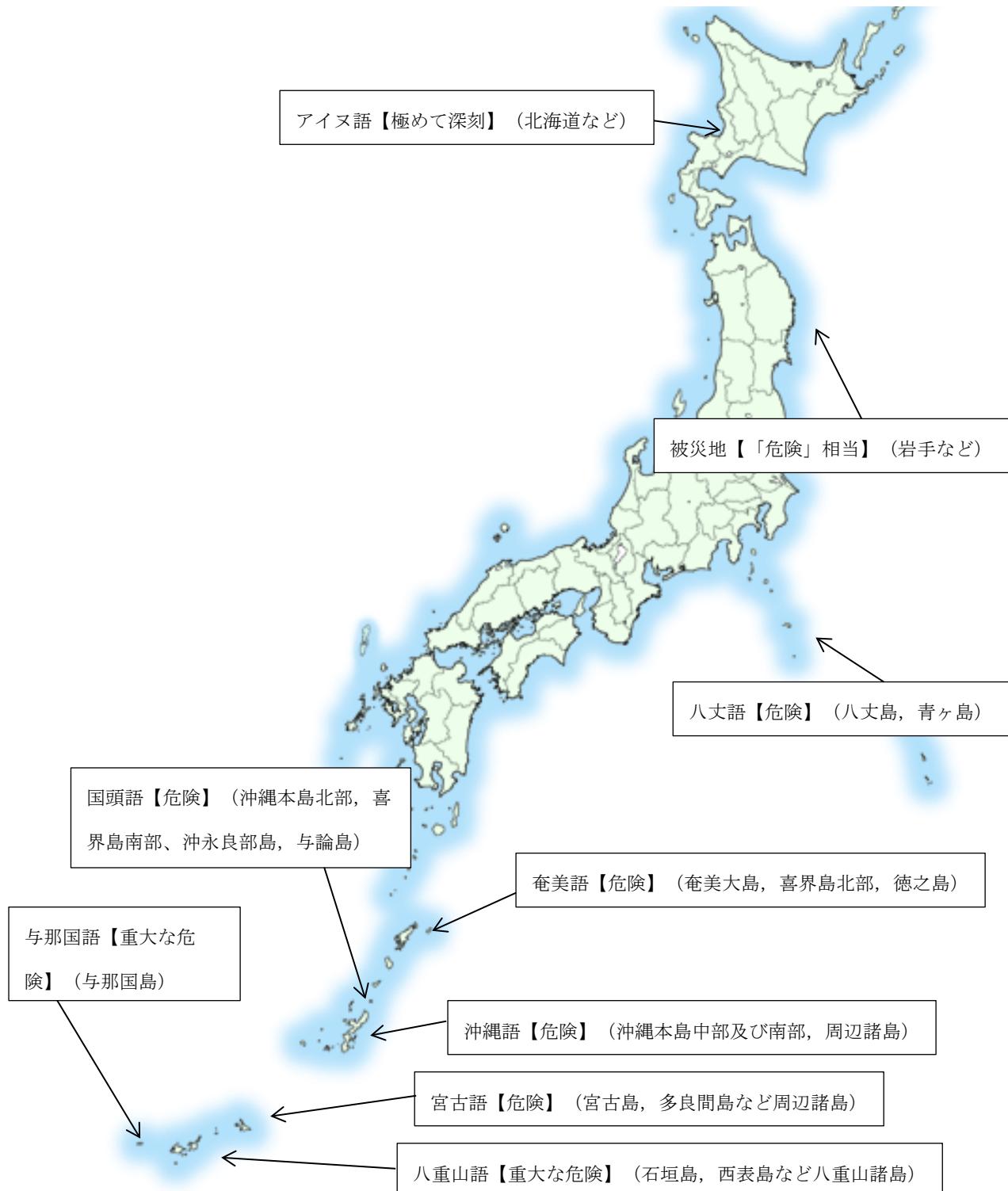
危機的な状況にある
言語・方言に関する
基本情報



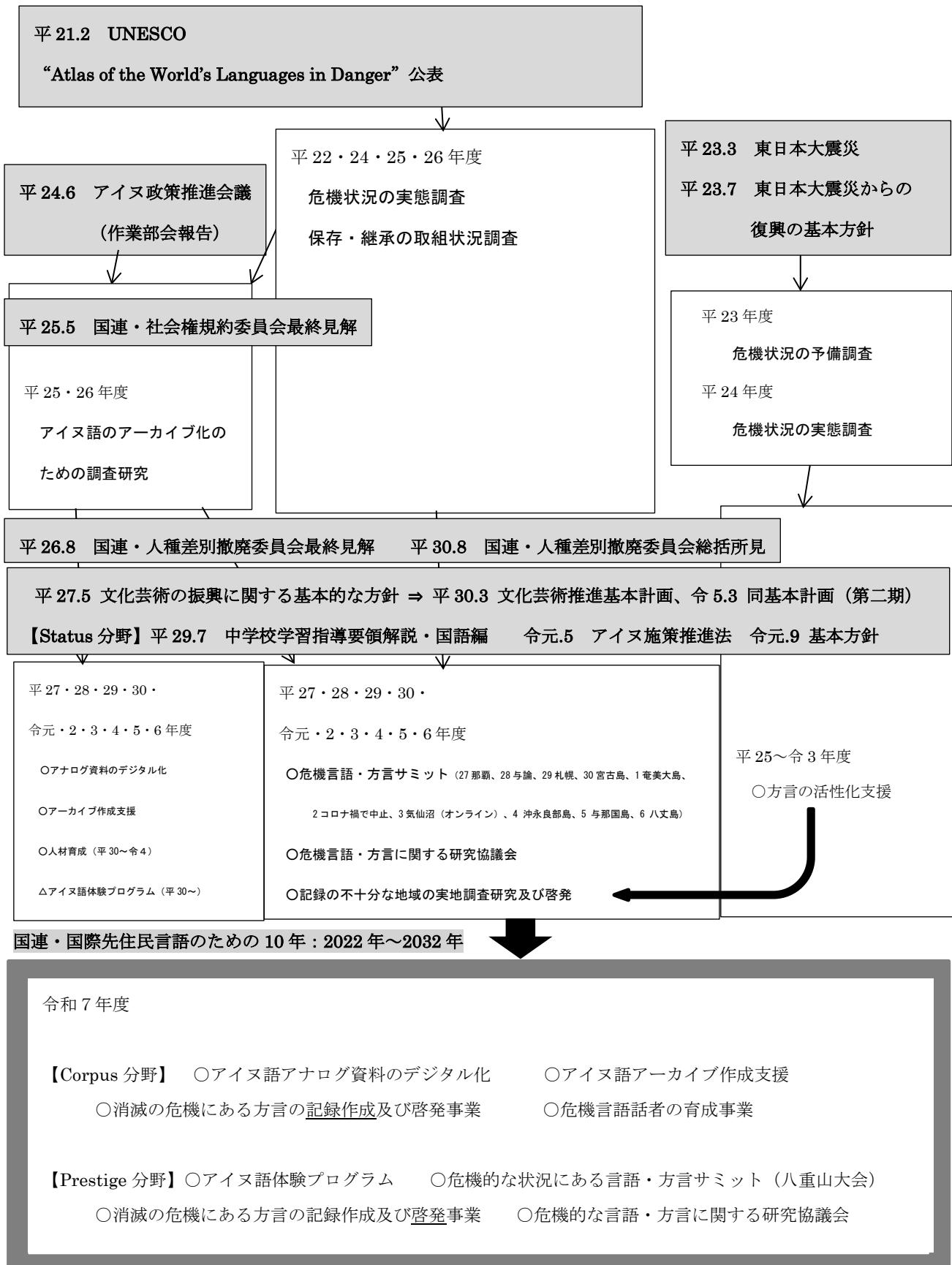
“Atlas of the World’s Languages in Danger” (UNESCO2009)

で消滅の危機にあるとされた日本国内の言語 及び

東日本大震災の被災地の方言



危機的な状況にある言語・方言に関する文化庁の取組の展開



消滅の危機にある言語・方言に関する施策の枠組み

消滅危機言語の継承のためには、3分野にわたる取組が必要であると危機言語研究者から指摘されている。この3分野に対応した取組をデザインする必要がある。

◆STATUS (公的位置付け) ……法律等による公的な位置付け

方言：東日本大震災からの復興の基本方針→中学校学習指導要領解説・国語編

アイヌ語：アイヌ施策振興法、アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本方針

⇒ 既に公的な位置付けが示されている状態にある。

◆CORPUS (言語資源) ……辞書、文法書、例文集、教材など

方言もアイヌ語も地域差が大きい

→ 十分な言語資源の整っていない地域の調査研究が必要

⇒ 消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業

アイヌ語アーカイブ関係事業

危機言語話者の育成事業

◆PRESTIGE (威信、社会的イメージ) ……社会的に抱かれているイメージ

危機言語・方言の価値と危機的な状況を伝えていく必要

⇒ 危機的な状況にある言語・方言サミット

消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業

危機言語・方言に関する研究協議会



010

危機の度合いの判定基準

いろいろな研究者が判定基準を提唱してきたが、主として現在は、ユネスコ(消滅危機言語に関する専門家グループ)が2003年(平成15年)3月に発表した「言語の体力測定」(9項目・各6段階)に基づいて総合的に消滅の危機度は判定されている。

(1)その言語がどの程度次の世代に伝承されているか。

(2)母語話者数

(3)コミュニティー全体に占める話者の割合

(4)どのような場面でその言語が使用されているのか

(5)伝統的な場面以外で新たにその言語が使用されている場面がどの程度あるか

(6)教育に利用され得る言語資料がどの程度あるか

(7)国の言語政策(明示的、非明示的態度を問わず)

(8)コミュニティー内でのその言語に対する態度

(9)言語記述の質と量

それぞれの項目はどのような目安で判定されるのか？

(1) その言語がどの程度 次の世代に伝承されているか

- 5点 子供を含む全ての世代で使用されている。
- 4点 全ての子供たちが一定の限られた場面で使用している。
- 3点 親の世代以上で使用されており、子供たちは使用していない。
- 2点 祖父母の世代以上で使用されており、親、子供の世代は使用していない。
- 1点 曾祖父母以上の世代で使用されており、ほとんどの話者は使用していない。
- 0点 言語を使用する者はいない。

(2) 母語話者数

※ 一般に、どの年代以上が使用できるかを基に地域の人口から推計する。

(3) コミュニティー全体に占める話者の割合

- 5点 全員が使用している。
- 4点 ほぼ全員が使用している。
- 3点 使用している者が大半を占める。
- 2点 使用している者は少数派である。
- 1点 使用する者はほとんどいない。
- 0点 誰も使用していない。

(4) どのような場面でその言語が使用されているか

- 5点 全ての場面で、全ての目的のために使用されている。
- 4点 二つ以上の言語が、全ての場面で、全ての目的のために使用されている。
- 3点 家庭の場面では使用されているが、支配的言語が家庭でも使われ始めている。
- 2点 限られた場面、幾つかの目的のために使用されている。
- 1点 ごく限られた場面で使用されるだけで、機能的に使用されることはない。
- 0点 どんな場面のどんな目的のためにも使用されていない。

(5) 伝統的な場面以外で新たにその言語が使用されている場面がどの程度あるか

- 5点 新たに生活に加わったどんな場面でも使用されている(テレビ放送など)。
- 4点 新たに生活に加わったほとんどの場面で使用されている。
- 3点 新たに生活に加わった一定の場面で使用されている。
- 2点 新たに生活に加わった幾つかの場面で使用されている。
- 1点 新たに生活に加わった場面ではほとんど使用されていない。
- 0点 新たに生活に加わった場面では使用されていない。

(6) 教育に使用され得る言語資料がどの程度あるか

- 5点 確立された書記法と伝統的な文法記述、辞書、文字資料、文学が存在する。行政、教育で使われる書き言葉がある。
- 4点 文字資料が存在し、子供たちは学校で言語使用を学んでいる。行政の書き言葉では言語は使用されていない。
- 3点 文字資料が存在し、子供たちは学校でそれに触れる機会がある。言語使用は奨励されではない。
- 2点 文字資料は存在するが、コミュニティー内の限られた者にしか利用されていない。ある者にとって文字使用は象徴的な意味を持つことがある。言語使用は学校教育には取り入れられていない。
- 1点 書記法が存在することは知られている。それで書かれた文字資料が幾つかある。
- 0点 書記法は存在しない。

(7) 国の言語政策(明示的、非明示的態度を問わず)

- 5点 国内の全ての言語が保護されている。
- 4点 言語は保護されているが、主に家庭など限られた場面で使用され、公的には使用されない。
- 3点 言語に関する保護政策は施行されていない。公的場面では支配的言語が使用される。
- 2点 政府は支配的言語の使用を勧めている。言語に関する保護政策は施行されていない。
- 1点 支配的言語のみが公的に使用され、言語は保護や認知すらされていない。
- 0点 言語の使用が禁止されている。

(8) コミュニティー内のその言語に対する態度

- 5点 全員が言語を大切にし、使用が奨励されることを望んでいる。
- 4点 ほとんどの者が、言語が次世代にも使われることを支持している。
- 3点 多くの者が、言語が次世代にも使われることを支持している。その他の者は、無関心であるか、言語が使用されなくなることを望んでいる。
- 2点 言語が次世代にも使われることを支持している者もいる。その他の者は、無関心であるか、言語が使用されなくなることを望んでいる。
- 1点 言語が次世代にも使われることを支持している者は少数しかいない。その他の者は、無関心であるか、言語が使用されなくなることを望んでいる。
- 0点 言語が使用されなくなることに関心のある者はいない。全ての者が支配的言語の使用を望んでいる。

(9) 言語記述の量と質

- 5点 分かりやすい文法記述と文字資料が多く存在し、言語資料は常に生産されている。
高い質の録音、録画資料が存在する。
- 4点 良い文法記述が一つあるほかにも、文法資料、辞書、文字資料、文学、それに定期的に更新される日常言語使用の資料が存在する。一定の質の録音、録画資料が存在する。
- 3点 一定の文法資料、辞書、文字資料が存在し得るが、日常言語使用の資料はない。録音、録画資料は、質の高いものも低いものもあり、文字化されているものやされていないものもある。
- 2点 限られた言語学的目的に利用可能な簡単な文法記述、語彙表、文字資料が存在するが、総括的なものはない。録音、録画資料は、質の高いものも低いものもあり、文字化されているものやされていないものもある。
- 1点 簡単な文法記述、短い語彙集、断片的な文字資料が幾つか存在するのみ。録音、録画資料は存在しないか、利用不可能、若しくは全く文字化されていない。
- 0点 言語記述は存在しない。

平成22年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業 報告書」
(平成23年2月 国立国語研究所)による

※ これらの判定基準を日本においては当てはめると?

項目	アイヌ語	八丈	奄美(喜界島)	国頭(名護幸喜)	沖縄(久米島)	宮古(多良間島)	八重山(宮良)	与那国	鹿児島甑島	岩手三陸
(1)伝承	1~3	2~3	3	2	2~3	3	2	3	3	2~3
(2)話者数	ごく少數	1700	5924	83	1330	2133	数百	393	3210	—
(3)割合	1~3	2	3	2	2	3	2	2	2	3
(4)使用場面	2	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3
(5)新場面	1	2	1	0	2	0	1	0	0	1~2
(6)言語資料	2	2~3	2	1	1~2	1~2	1	1	2	2~3
(7)言語政策	3	3~4	2~3	1~3	3	3	2	3	2	2~3
(8)態度	2~3	3~4	2~3	4	4	2~3	2	2~3	1~3	2~3
(9)言語記述	2~4	3~4	2	3~4	2~3	2	2	2	1	2
平均	1.75 ~ 2.63	2.1~ ~2.5	2.21 ~2.5	2.25	2.3~ ~2.8	2~ ~2.38	1.8	1.88 ~ 2.13	1.625 ~2	2.0~ ~2.8
判定	極めて深刻	危険	危険	危険	危険	危険	重大な危機	重大な危機	極めて深刻?	危険?

平成22年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究」(国立国語研究所)

平成25年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究」(琉球大学)

平成24年度文化庁委託事業「東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究(岩手県)」(岩手大学)

令和7年度 危機的な状況にある 言語・方言サミット 八重山大会

令和7年

10月25日(土) 10:00~17:45

26日(日) 10:00~16:30

会場:石垣市民会館大ホール
(沖縄県石垣市浜崎町1-1-2)

レバシキルカ シマバシキル

(言葉を忘れたら

忘れていませんか? あなたの故郷の言葉
故郷を忘れる)

アイヌ
語

八丈
方言

奄美
方言

国頭
方言

沖縄
方言

宮古
方言

八重山
方言

与那国
方言

被災地
方言

どなたでも参加できます 参加費無料 申込不要

主催・共催

文化庁・沖縄県・石垣市・石垣市教育委員会・竹富町・竹富町教育委員会
大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・国立大学法人琉球大学

趣旨

日本には消滅の危機にある言語・方言がいくつもあります。アイヌ語、八丈方言、奄美方言、国頭方言、沖縄方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言、そして東日本大震災の被災地方言などです。「危機的な状況にある言語・方言サミット」は、これらの言語・方言の状況や地域の取組事例の紹介、聞き比べや講演などを通して、文化の多様性を支える言葉の役割や価値について共に考え、危機的な状況を改善するきっかけとしようとするものです。

《10月25日 土》 10:00~17:45

10:00 オープニングアトラクション

10:30 開会式

10:45 基調講演

セリック・ケナン氏
(国立国語研究所)
「八重山語の現状とその行方について
:歴史的な視点を踏まえて考える」

12:00 休憩

13:00 危機言語・方言の聞き比べ

アイヌ・八戸・八丈島・新島
奄美大島・喜界島・沖永良部島
与論島・国頭・沖縄・宮古島
多良間諸島・石垣市・竹富町
与那国島

14:30 危機言語・方言による表現披露1

スマムニ広め隊
竹富町西表島 祖納公民館

15:40 ブースアピール・ブース発表
(パフォーマンスあり)

17:45 終了(予定)

(問合せ先)

石垣市教育委員会いきいき学び課 TEL (0980)-83-0373⁰¹⁶ 文化庁国語課 TEL 03-5253-4111 (内線2839)

《10月26日 日》 10:00~16:30

10:00 開会

10:05 危機方言の現況報告
石原昌英氏 (琉球大学)

10:35 八重山地方における取組報告

11:05 アイヌ語の現況報告
深澤美香氏 (国立アイヌ民族博物館)

11:35 危機言語・方言による表現披露2
南部方言 (八戸) : 昔コ語り
アイヌ語 (樺太方言) : スピーチ
舞蹈・歌謡

12:40 休憩

13:40 すまむに (方言) を話す大会

15:50 閉会式

16:30 終了(予定)



紹介

- ・2018年～現在、国立国語研究所
- ・2014年～2016年の間宮古に滞在し、宮古語を学習
- ・2019年よりアクセントと語彙収集を中心に八重山語諸方言の研究に従事

セリック・ケナン氏
(国立国語研究所)

1日目

オープニングアトラクション



やいまぬわらべうた

何よりも豊かな自然と薫り高い文化がある石垣島において、子ども達が自然にわらべうたえを口ずさむことができることを願い歌い、遊び続けてきました。

やいまぬわらべうたは、楽しく遊べて身体の諸機能が発達していき、創造も要求され、表情が豊かになっていきます。

私たちしうまむに伝承研究会は、しうまむに（八重山語）の絵本・紙芝居・教材本を作成して、こども園等でやいまぬわらべうたで遊んだり、読み聞かせを実践しています。

今回は、「新栄町こども園」と「川平こども園」の子ども達が、日頃の遊びを元気いっぱい披露します。

家ざらい（ヤーザライ）

大浜村古謡愛好会

大浜村に伝わる一般的な家の落成式（アーラヤーヌヨイ）は以下の順で行われます。

- ①火の神（ピナカン）を迎える家の落成を報告します。
- ②家の清め儀式に使用する白米のご飯炊き（ペエナペエナ ヌ ンボンマカシ）の準備がなされます。
- ③床の間の本神（ザーヌフンズン）を安置し床の間の願い（ザーヌニンガイ）を行います。
- ④家の清めの儀式（ヤーザライ）ではペエナペエナで炊きあがった米を、東西南北、棟木の天井へ撒き家を清めます。
- ⑤中柱から結人神（ユシトゥンガナシ）を解放し一緒に新築祝いの酒を飲みお祝いしていきます。
- ⑥最後に松金ゆんた（マツンガニユンタ）を歌い祝宴へと移ってきます。

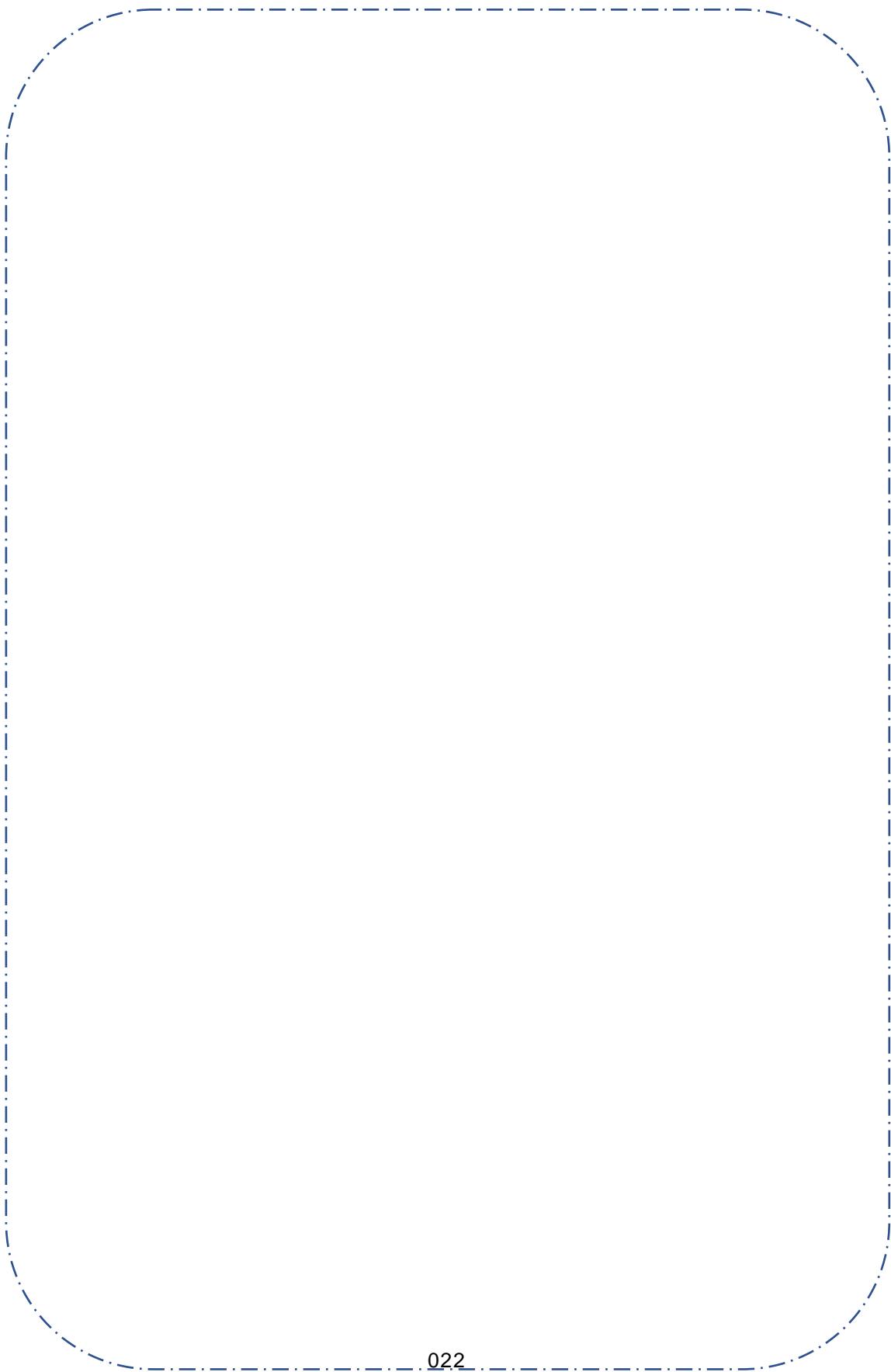
1日目

基調講演

「八重山語の現状とその
行方について：歴史的な
視点を踏まえて考える」

国立国語研究所特任助教

セリック ケナン



022

八重山語の現状とその行方について：歴史的な視点を踏まえて考える

セリック・ケナン（国立国語研究所）

令和7年10月25日・石垣市民会館

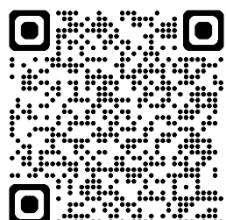
1. 自己紹介

- 昭和62年生まれのフランス人で、現在は国立国語研究所の特任助教を務めています。
- 2009年に日本語を学ぶために留学し、大学院時代に受けた「池間方言」の授業で初めて琉球のことばを聞いて、深い感動を覚えました。これをきっかけに宮古島に移り、2014年から2016年にかけて2年間、宮古語を学びました。
- 2019年からは視野を広げて、アクセントと語彙を中心に八重山語の各地の方言を研究してきました。
- これまでの成果として、『川平方言会話集』などがありますが、現在も、『大浜方言辞典』などのようにたくさん事業に従事して、これからも成果を発表していく予定です。



ホーマムニ伝承会での聞き取りの様子

- 今抱いている抱負として、『日琉言宝』という、日本各地の方言をだれもが簡単に聞けるようにするデータベースの開発に取り組んでおります。今回の石垣方言サミットを機に、これまで集めてきた八重山各地のデータを公開してみました。八重山語の魅力を誰にでも広く伝える一助となればと願っております。



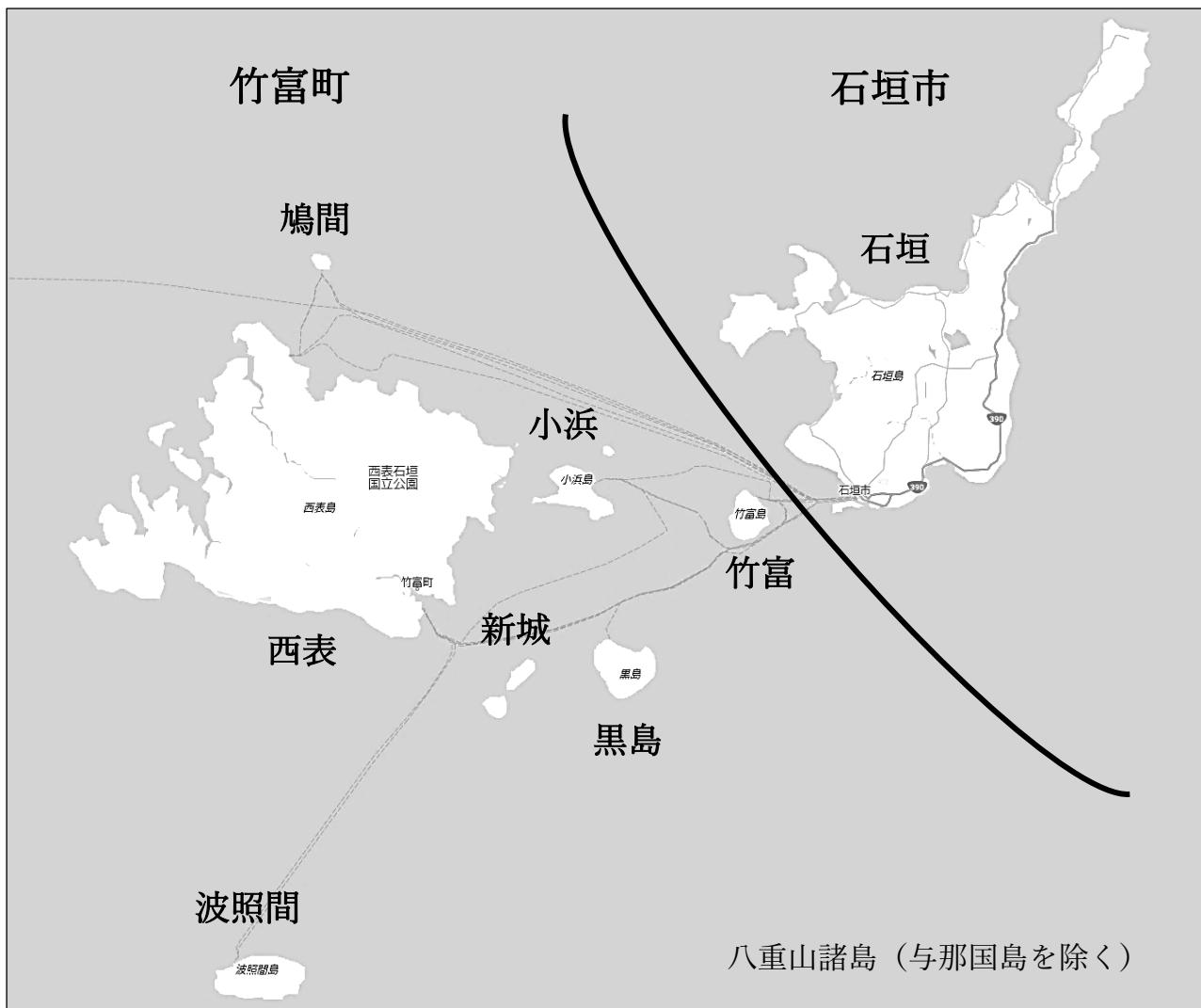
『日琉言宝』アドレス

<https://kikigengo.ninjal.ac.jp/nrdb/goi.html>

2. 背景

2.1. 八重山語の概要

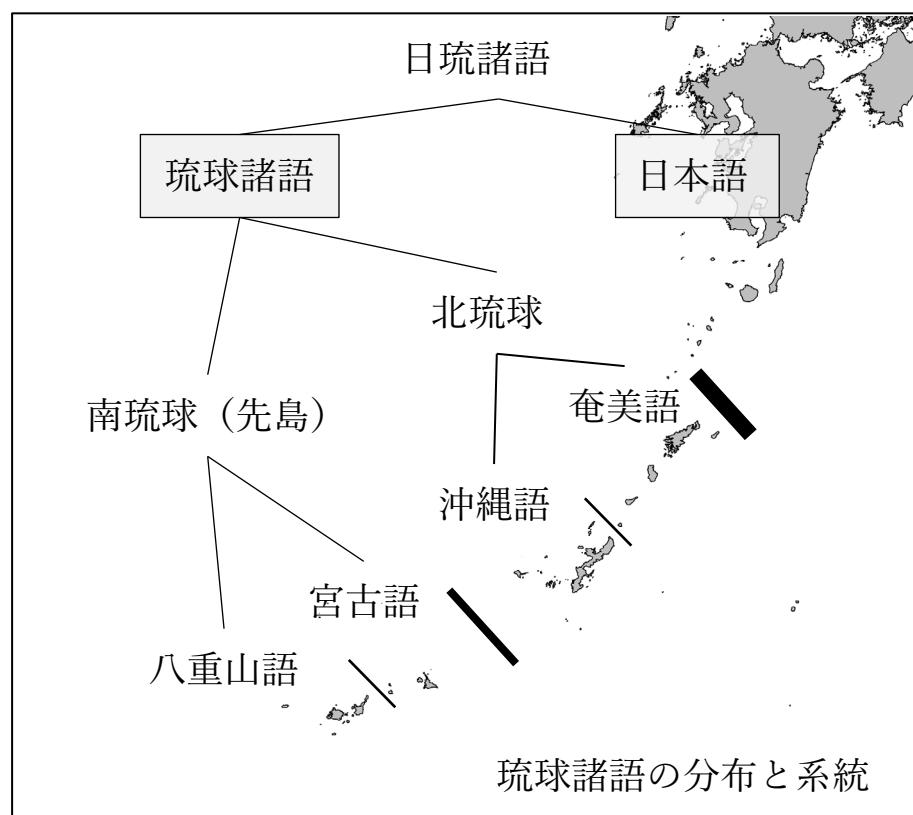
- 八重山語（石垣四箇方言では〈「ヤイマムニ〉または〈「スイマムニ〉）は、八重山諸島で伝統的に話されていることばのことです。八重山諸島は、石垣市に属する石垣島、竹富町に属する島々、そして与那国町に属する与那国島からできています。



- 八重山語の大きな特徴は、琉球諸語の中でも、発音、アクセント、文法、語いのあらゆるレベルにおいて、地域ごとの言語的なバリエーションが極めて大きいことです。その中で、石垣島の言語的状況が特に複雑です。

2.2. 八重山語の系統

- 八重山語は、「日琉諸語」と呼ばれる語族に属していて、他の琉球のことばや日本語と同じルーツを持っています。
- その中で、八重山語は、宮古語と一緒に「南琉球」と呼ばれる語派を成しており、歴史的につながりが深く、多くの共通点があります。同時に、八重山語が首里からの影響も受けていると考えられます。
- ただし、ルーツは同じでも、八重山語は独自の言語であって、他のことばとはまったく通じないのです。



- 具体的には、基礎語いを調べてみると、八重山語は日本語などと「同系統」、つまり同じ言葉にさかのぼる仲間だということがよく分かります。

表1 自然語彙比較

概念	日本語	首里	宮古平良	石垣四箇	石垣川平	西表祖納
「木」	き	きー	きー	きー	きー	きー
「草」	くさ	くさ	ふさ	ふさ	ふさ	ふさ
「空」	そら	ていん	ていん	ていん	ていん	ていん
「雲」	くも	くむ	ふむ	ふむ	ふむ	ふむ
「雨」	あめ	あみ	あみ	あーみ	あーみ	あみ
「風」	かぜ	かじ	かじ	かじ	かじ	かじ
「太陽」	たいよう	ていーだ	ていだ	ていだ	ていった	ていだ
「海」	うみ	うみ	いム	とうもーるい	いなー	すーな
「浜」	はま	はま	ぱま	ぱま	ぱま	ぱま <u>な</u>
「島」	しま	しま	すま	すいま	すいま	しま

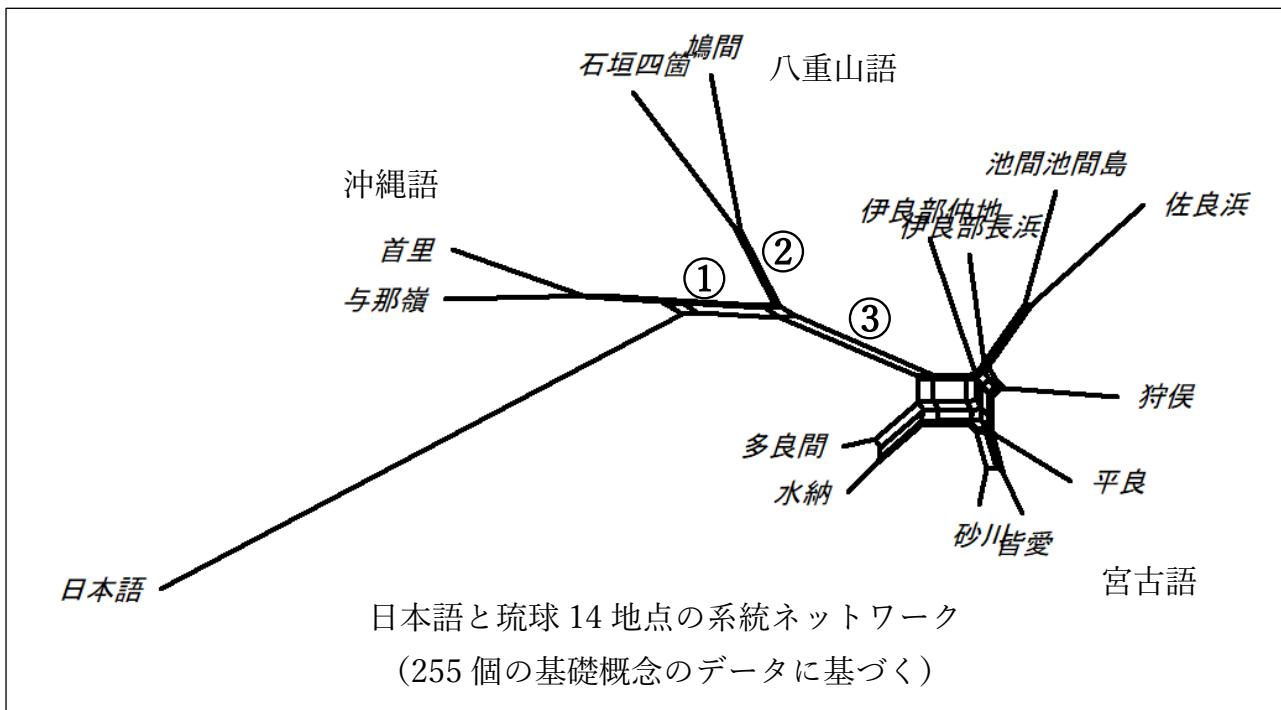
7割もの基礎概念に対して、全ての地点で同じ言葉が使われています

表2 身体語彙比較

概念	日本語	首里	宮古平良	石垣四箇	石垣川平	西表祖納
「目」	め	みー	みー	みー	みー	<u>みんち</u>
「鼻」	はな	はな	ぱな	ぱな	ぱな	ぱな
「口」	くち	くち	ふつ	ふつい	ふつい	ふち
「頭」	あたま	ちぶる	かなま ^イ 。	つぶるい	ついつぶる	ざぶら
「手」	て	ていー	ていー	ていー	ていー	ていー
「肩」	かた	かた	かた <u>むす</u>	かた	かた	かた
「お腹」	おなか	わた	ばた	ばだ	ばだ	ばだ
「膝」	ひざ	ちんし	つぶす	ついぶすい	ついぶすい	しぶし
「足」	あし	ふいしゃ	ぱギ	ぱん	ぱん	ぱい
「かかと」	かかと	あどう	あどう	あどう	ぱんぬ	かどう あどう～ かどう

5割の基礎概念に対して、全ての地点で同じ言葉が使われています

- 以上のように同じ概念に対して同じ言葉を使っているかどうかを調べておくと、ことば同士の距離を計算することができます。ここでは、255の基礎概念のデータに基づいて、琉球の14地点の系統を示します。



2.3. 八重山語の現状

- 現在の八重山語には、(与那国を除いて) 15 以上の言語変種 (一般に言うところの「方言」) が存在します。

表3 八重山語の方言 (現在もなお話されている方言)

石垣島 (=石垣市)	石垣四箇 (いしがきしか) 平得 (ひらえ) 真栄里 (まえざと) 大浜 (おおはま) 宮良 (みやら) 白保 (しらほ) 川平 (かびら)
竹富 (以降、竹富町)	竹富 (たけとみ)
黒島	黒島 (くろしま)
鳩間	鳩間 (はとま)
小浜	小浜 (こはま)
西表東部	古見 (こみ)
西表西部	干立 (ほしたて) 祖納 (そない) 船浮 (ふなうき) 網取 (あみとり)
新城	上地 (かみじ) 下地 (しもじ)
波照間	波照間 (はてるま)

- 八重山語は、他の琉球のことばと同じように「消滅危機言語」として認められています。その中でもとくに危機度が高く、「重大な危険」にあると分類されており、言語の継承という点では、とても深刻な状況にあります。
- まず、言語の危機度を考える上で大事な指標となるのは、話し手 (専門的には「話者」) の数です。ウィキペディアには、「八重山語の話者は約 44,650 人がいる」と書かれています (2025 年 10 月 1 日時点)。これに対して、宮古語については「約 2 万人ほどの話

者がいる」とされています。いずれの数字も出典は明示されていらず、その根拠となるものが不明のままです。

- 実際のところ、全体の話者的人数についての研究はなく、はっきりとしたことがあまり分かっていないのです。しかし、確かなこととして、宮古語の話者が八重山語の半分しかいないというのは、とうてい考えられません。つまり、八重山語の数字は高めで、逆に宮古語の数字は低めだと思います。
- 発表者が簡単に調べた範囲で、話者数が分かっている方言を表4に示します。ご覧のとおり、方言ごとの差はとても大きいのです。

表4「流暢」に話せる話者の数（8方言）

（ただし、八重山在住の数であることに注意）

方言	話者数	出典
真栄里	29名（2018時点）	（占部2021）
宮良	500名程度（2010時点）	（Davis 2014）
白保	50名程度か	（占部2021）
小浜	100名、2018時点	（Davis 2018）
黒島	島には40名程度	（原田2016）
西表古見	（多く見て）3名程度か	発表者調べ
西表祖納	（多く見て）2名程度か	発表者調べ
西表船浮	村には1名	（占部2018）
	石垣島には1名	発表者調べ
（合計：827名）		

- 当然ながら、話者が数百名いる方言と、数名しかいない方言とでは、継承の可能性や取り組み方に大きな違いが出てきます。

3. 八重山語の多様性: 交差する歴史と言葉

3.1. 歴史的な視点から見た八重山語

- 八重山の歴史を大きく変えた出来事として、1771年に起きた「明和の津波」という自然災害があります。この災害は、今に至るまで、八重山全体の言語状況に大きな影響を与え続けています。
- まず、この災害の結果、八重山の人口は大幅に減少しました。さらに、石垣島の集落を再興するために、離島からの移住が行われたのです。この出来事をきっかけに、八重山のことばの状況は激変し、深刻な影響を受けることになったのです。



- 離島のことばが移ってきたことで、石垣島の言語状況は一変します。体系の異なることば同士が、同じ地理的空間で共存するようになったのです。

表5 石垣島の言葉と離島の言葉との関係

方言	「家」	「今」	「膝」	「そう」	「山羊」
石垣	やー	なま	ついぶすい	あんじ	ぴびじや
川平	やー	めーま	ついぶすい	あし	ぴびじや
真栄里	やー	まなま	?	あい	?
大浜	やー	なま	つぶすん	あんじ	ぴみじや
白保	ひー	まな	すぷしん	えー（くあい）	ぴみじや
黒島	やー	まぬま	すぶし	あい	ぴしだ
波照間	ひー	まな	すぷしん	え（くあい）	ぴいみざ

- 津波とその後の影響で人口は大幅に減少し、明治中期になっても元のレベルに戻ることはませんでした。

表6 八重山と宮古の人口推移

地域	1729年	1746年	1771年（津波前）	1880年
宮古	24,206人	31,734人		28,403人
八重山	17,051人	22,354人	28,992人※	13,087人

比嘉（2021）より（※「大波之時各村之形行書」より）

- 1880年代は、近代化の流れに沿って、日本語による義務教育などの制度が導入された時期であり、八重山語だけで生活してきたモノリンガルの世界が終わりを告げた時期でもあります。この過渡期に、八重山語から日本語への言語シフトが起動し始めました。当時からもともと話者数は少なく、そのことがのちの言語継承に負の影響を与えたと考えられます。
- 戦後の八重山は、隣の宮古などに比べて人口が相対的に少なかったためか、島外に出ていく宮古とは逆に、島外から人が入ってくる地域でした。特に宮古や沖縄からの移住者が多かったです。その結果、日本語が広がり続けるとともに、八重山語とはまったく通じないことばが複数も入り込んで、八重山の言語状況はさらに複雑になっていきました。
- このような状況の中で、日本語の使用が促進されたと考えられます。言語状況の複雑さ自体が八重山語から日本語への言語シフトに拍車をかけた可能性があるのです。

3.2. 現代八重山語の言語的多様性

- 上で述べた通り、八重山語の大きな特徴は、琉球諸語の中でも地域ごとの言語的なバリエーションが極めて大きいことです。では、日常的なことばを通して、そのバリエーションを具体的に見ていきましょう。

文例 1：【同等の人へ】「家にいる」

方言	「家にいる」	変数1 「～に」	変数2 「居（を）る」語頭音
石垣	やーんがどう うるい	んが	う
大浜	やーんがどう うる	んが	う
真栄里		な	う
宮良	やーんがどう うる	んが	う
白保	ひーな ぶん (?)	な	ぶ
川平	やーな うん	な	う
竹富	やーなどう ぶら (?)	な	ぶ
黒島	やーなどう ぶる	な	ぶ
鳩間	やーな べー (?)	な	ぶ
小浜	やーんがとう うる	んが	う
古見	やーな ぶるん	な	ぶ
祖納	やーなどう ぶ	な	ぶ
新城（下）	いえーに ぶる	に	ぶ
波照間	ひーなー ぶん	な	ぶ

（※焦点助詞〈～どう〉の有無など、文の体裁は統一していない）

- 方言によって、いる場所やある場所を表す日本語の「～に」には、なんと 3 通りもの異なる形式が分布しています。
- 議論を省きますが、分布が限られている〈～んが〉の方が比較的新しく、離島に多い〈～な〉の方が比較的古い形式だと考えられています。

- 石垣島には〈～んが〉と〈～な〉の両方が見られます。ただし〈～な〉については、川平を除き、津波の後に黒島や波照間から人々が移り住んできたことによるものです。
- また、「居（を）る」を表すことばには、〈ぶ〉から始まる発音があり、これは日本古語にあった「を」の音を残した古い形です。この〈ぶ〉も離島に多く見られます。
- 石垣島では、〈ぶ〉を使うのは白保だけですが、これは波照間からの移住によるものです。黒島の流れをくむ真栄里でも、かつては〈ぶ〉があったはずですが、今では〈う〉に変わっています。つまり、市街地から最も離れた白保は、石垣島のことばの影響をあまり受けずに親島のことばの特徴をそのまま残していると言えます。
- さらに、小浜は本来、西表島古見のことばの流れを汲むはずですが、実際には石垣と同じく〈～んが〉と〈う〉を使います。これは離島の方言として興味深い点です。そして、小浜の流れを汲む宮良も、小浜と同じ特徴を持っています。
- 最後に、「家」に対しては、日本語の「屋（や）」に対応する〈やー〉ではなく、語源が大きななぞに包まれた〈ひー〉を使う波照間と白保のことばがあります。基礎的な語いにさえバリエーションが見られることは、豊富な言語的多様性という八重山語の特徴をよく表しています。

文例 2：【同等の人へ】「どこへ行くの？」

方言	「どこへ行くの？」	変数 1 「～へ」	変数 2 「行く」
石垣	ずいまかいどう はりや？	かい	ぱるん
大浜	ずまかいどう はりや？	かい	ぱるん
真栄里	〇〇〇 〇〇〇？	か (>は)	
宮良	すんげーどう 〇〇〇？	かい？ (>げー)	ぱるん
白保	ぎーご 〇〇〇？	か (>ご)	んぎるん
川平	どうまへどう ぱりやー？	かい (>へ)	ぱるん
竹富	まーい~どう はりや？	に？ (>い)	ぱるん
黒島	まーは ぱら？	か (>は)	ぱるん
鳩間	まー_ ぱるわ？	か (>ゼロ)	ぱるん
小浜	ずまんげー 〇〇〇？	んかい (>んげー)	？
古見	ついまいどう ぱりやー？	に？ (>い)	ぱるん
祖納	だんってい んぎりやー？	ってい	んぎるん
新城（下）	じえーか ぱれ？	か	ぱるん
波照間	ざーが んぎば？	か (>が)	んぎるん

（竹富の〈い～〉は鼻母音）

- 方言によって、行き先を表す日本語の「～へ」には、なんと 5 通りもの異なる形式が分布しています。しかも、それぞれの方言では音の変化がとても激しいのです。
- いる場所を表す「～に」の形式とは違って、これらの形式の歴史的な関係についてはまだよく分かっていません。唯一はっきりしているのは、祖納の〈～ってい〉がおそらく新しい形式だということです。
- 石垣島の伝統的な方言（石垣・川平など）では〈～かい〉が使われますが、離島では〈～か〉が多く見られます。そして、離島の流れをくむ石垣島の白保と真栄里でも〈～か〉系の形式が残っています。
- さらに「行く」という意味を表すことばには、2通りのタイプがあります。八重山でもっとも広く使われているのは、日本語の「走る」に対応する〈ぱるん〉系のことばです。

一方、西表祖納や波照間、そして波照間を親島とする白保では、〈んぎるん〉系のことばが用いられています。

3.3. 八重山語のアクセント

- 日本語と同じように、八重山語のほとんどの方言にも「アクセント」による区別が存在します。アクセントとは、簡単に言うと、単語ごとに決まっている声の高低のパターン（＝声の上げ下げ）のことです。

⑩ ↓ し 「箸」 は ↑ ⑪ 「橋」

- 八重山語のアクセントを調べるには、特定の単語を比べてみるのが効果的です。
 - ▶ まず、短いことばを見ると、おおよそ 2 つのパターンがあります。
 - ・かー 「井戸」 / かー 「皮」
 - ・かーら 「川」 / かーら 「瓦」
 - ▶ 続いて、地名を使った言い方を試すと、おおよそ 3 つのパターンがあります。
 - ・「西表方言」
 - ・「大和方言」
 - ・「鳩間方言」
- アクセントの実現にもバリエーションが見られます。「声を下げる」のが特徴の方言（石垣、大浜、宮良、竹富、黒島、鳩間）と、「声を上げる」のが特徴の方言（川平、小浜、古見、祖納）とがあるのです。

4. これからの八重山語の行方

4.1. 八重山語を知る意義、八重山語を継承する意義

- 地域レベル：日本各地の伝統方言は、長い歳月をかけてその土地の自然・文化・歴史を結晶させながら形成されてきたものであり、まさに無形文化財と言えるのです。
- 日本列島レベル：各地の伝統方言は、文献時代以前の日本列島の言葉の歴史を解き明かす上で、極めて重要な役割を果たします。例えば「魚」「妻」「新しい」に見られる古形や、P 音の保存などがその例です。

- 世界レベル：各地の伝統方言は、言語的多様性が非常に高いため、人間に特有の性質である「言語」を理解する上で大きく貢献しうる、学術的価値の高いものです。
- そこで、ことばが消滅するというのは、その地域で長い年月をかけて結晶してきたものが失われてしまうばかりではありません。日本列島全体の言語史にとって、かけがえのない資料が失われてしまうことをも意味するのです。これは、たとえば正倉院が燃えて灰燼となるのと同じぐらい深刻なことなのです。

4.2. 八重山語の今とこれから

- 八重山語が重大な危険に分類されている中で、今の八重山に暮らしていても、日常生活の中で八重山語を耳にすることは少なくなっています。それでも、八重山のどの地域にも、八重山語を話せる方々はまだいらっしゃいます。つまり、何らかの形で、八重山語を継承できる可能性は確かに残されているのです。
- 実際に、喜ばしい動きも起こっています。地元の方々による言語資料の編集が盛んに行われ、多くの優れた成果が生まれてきました（最新の例として、故・當山善堂の『黒島事典』があります）。こうした努力のおかげで、八重山語を知るための資料は今も着実に増え続けているのです。
- さらに、八重山の各地には、自分のシマのことばを守り、惜しみなく次の世代に伝えてくださっている先輩方がたくさんいらっしゃいます。こうした先輩方の存在こそが、継承への大きな力となっています。若い世代にとって負担が大きいと思いますが、それでも先輩方の思いに応えられるように、できることから取り組んでいければ、継承の可能性は確実に広がっていくと思います。
- 島の文化財である八重山語を次世代に継承していくために、今こそ、どのような取り組みが必要かを改めて考えてみるのが、よい時期だと思います。本日の方言サミットが、その考えを深めるきっかけとなれば幸いです。

参考文献

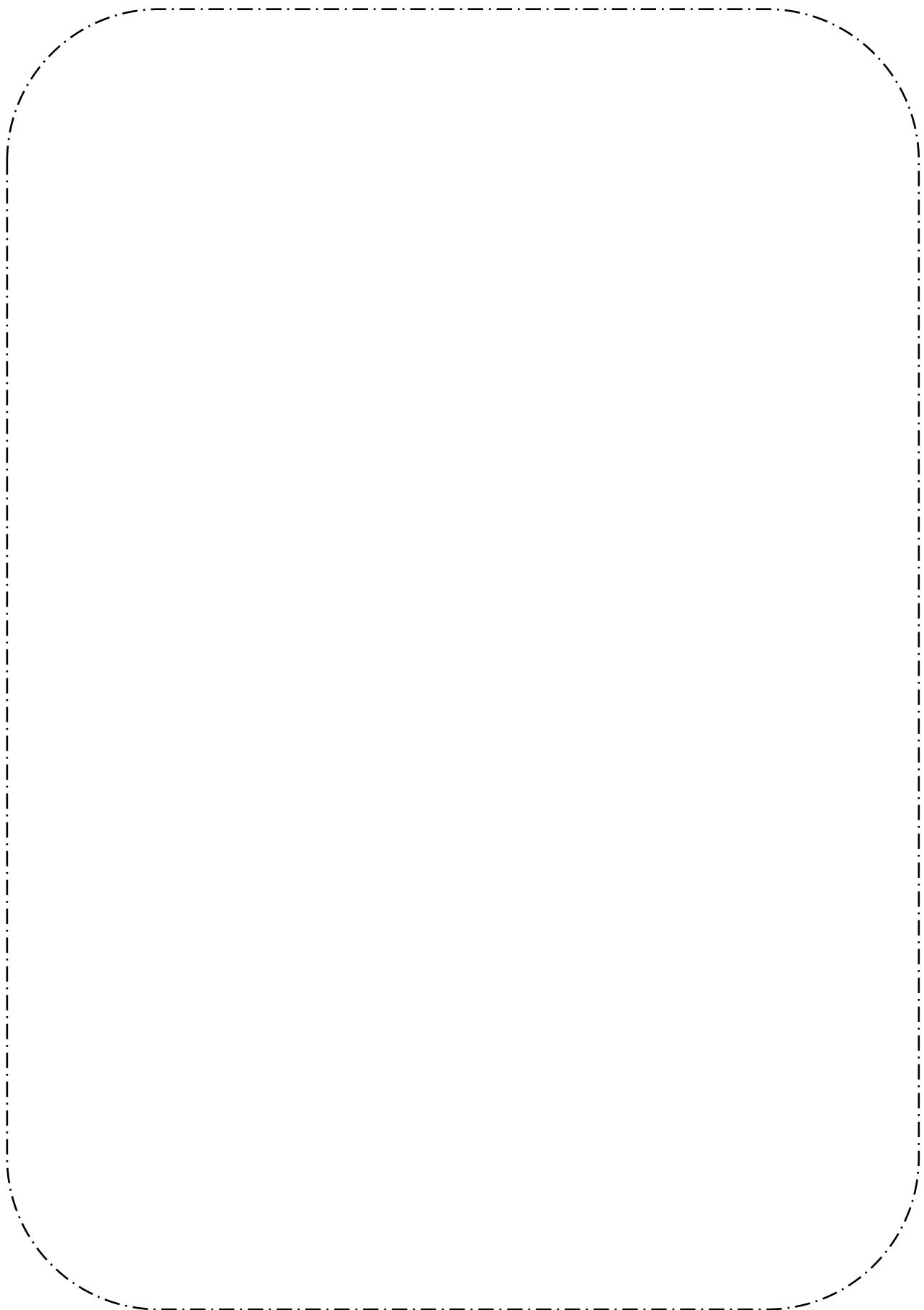
- 占部由子（2018）「南琉球八重山語西表島船浮方言の文法概説」修士論文. 九州大学.
- 占部由子（2021）「南琉球八重山語石垣島白保方言の記述研究」博士論文. 九州大学.
- Davis, Christopher (2014) 「沖縄県宮良方言」『危機的な状況にある言語・方言の実態に関する

る調査研究（八丈方言・国頭方言・沖縄方言・八重山方言』93-101 琉球大学国際沖縄研究所.

Davis, Christopher (2018) 「沖縄県竹富町小浜島・八重山語小浜言葉」琉球大学国際沖縄研究所編『シマジマのしまくとうば：平成 29 年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定実地調査研究：文化庁委託事業報告書』181-199、琉球大学国際沖縄研究所.

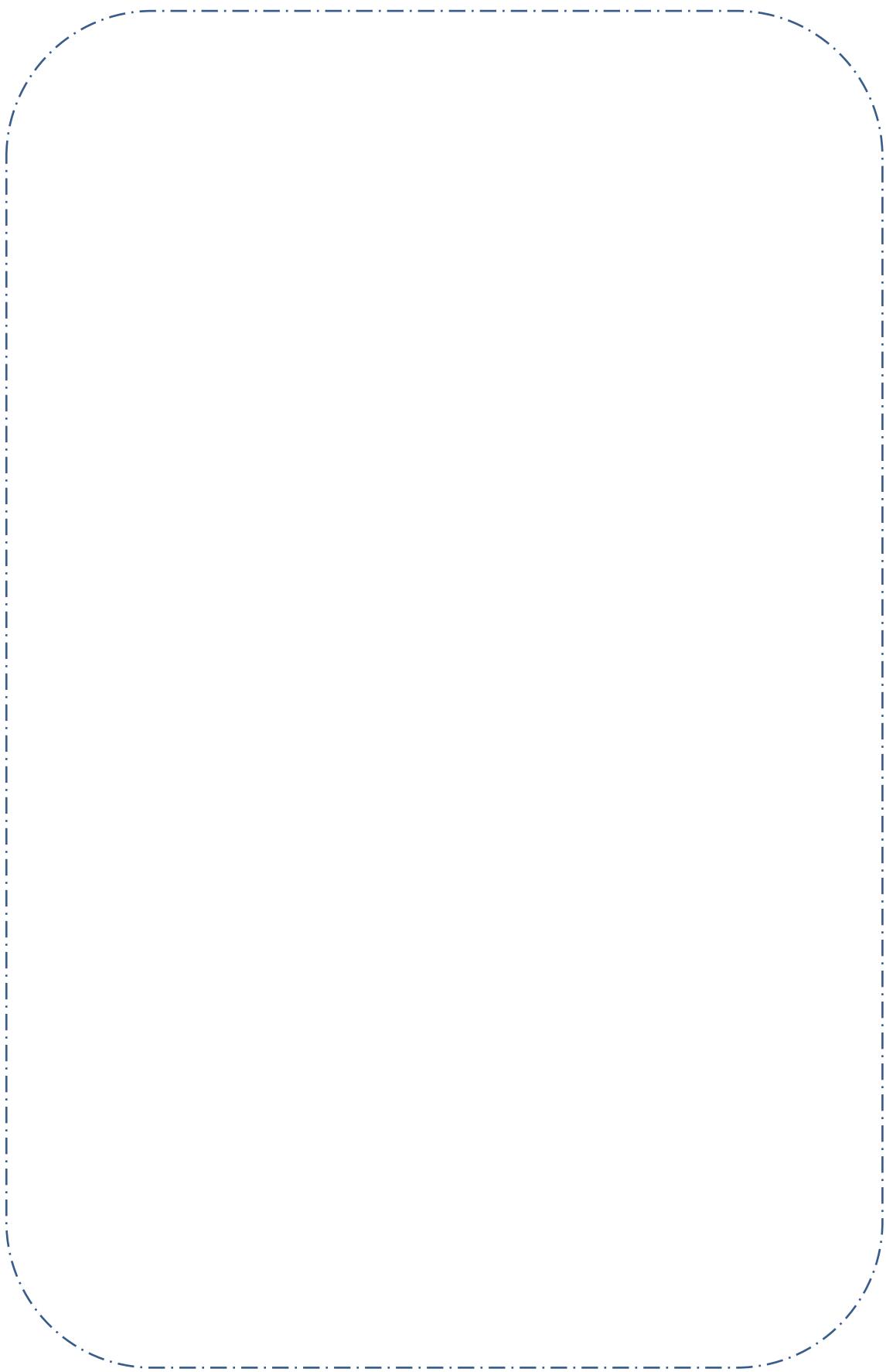
原田走一郎（2016）「南琉球八重山黒島方言の文法」博士論文、大阪大学.

比嘉吉志（2021）「近世琉球における人口推移の地域性について」『島嶼地域科学』19-39.



1日目

危機言語・方言の 聞き比べ



「聞き比べ」テキスト

「聞き比べ」では、

- シーン1「誕生日のお祝い」
 - シーン2「Aさんがお裾分けのため Bさん宅を訪問した時のやり取り」
- を、それぞれの地域の言葉にしていただきました。

なお、必ずしも逐語訳にはこだわらず、実際に使い得る表現を意識していただきました。そのため、該当する表現がないという場合もあります。また、表記は翻訳者から提出されたものをそのまま使い、相互に対照しやすいように位置の調整を行いました。(翻訳が空欄の箇所は、翻訳テキストの提出が入稿に間に合わなかったものです。)

<●シーン1:誕生日のお祝い>

- ① お誕生日おめでとうございます
- ② この1年があなたにとってすばらしい年でありますように

<●シーン2:Aさんがお裾分けのため Bさん宅を訪問した時のやり取り>

*AさんとBさんは親しい同年代

- ① A「ごめんください。いますか？」
- ② B「はーい、あっ、こんにちは。」
- ③ A「あらっ、お出掛けですか？」
- ④ B「そう、ちょっと買い物に。」
- ⑤ A「これっ、もらひ物だけど、お裾分けしようかと思って。」
- ⑥ B「あらっ、ありがとう。どなたから？」
- ⑦ A「ちょうど、兄が万博に行ってお土産だと持ってきてくれて。」
- ⑧ B「そうなんだ。」
- ⑨ A「万博は暑くて大変だったみたい。」
- ⑩ B「ニュースでも言っていたね。」

【翻訳者・話者】

<舞台左(下手)側から>

南部(八戸):梶谷 伸夫

新島(若郷):宮川 清み

八丈島:川上 純子

奄美大島(宇検):鈴木 るり子

喜界島(荒木):中馬 正登志

沖永良部島(田皆):田邊 ツル子

与論島:菊 秀史

沖縄本島(今帰仁村謝名):島袋 幸子

沖縄本島(那覇):高良 ひとみ

宮古(伊良部島佐良浜):普天間 一子 宮古(多良間島):島袋 梅子

石垣島(四力字):黒島 健

石垣島(白保):金嶺 光江

竹富島:大山 榮一

黒島:宮良 哲行

西表島:川平 永光

与那国島:田頭 英政

アイヌ語(樺太):楠木 スクシ

進め方

* <シーン1><シーン2>を、それぞれお一人で全文を通して発話していただきます。

* 次に、任意のお二人をペアとして、<シーン2>の A の役、B の役と、役を分けてやり取りをしていただきます。

＜●シーン1：誕生日のお祝い＞

- ① お誕生日おめでとうございます
- ② この1年があなたにとってすばらしい年でありますように

南部（八戸）（柾谷 伸夫）

- ① ムガイヅキ、オメデトウゴザイアンシタ。
- ② コノ1（イチ）年ガ、オメサマニトッテ、ヤンベダ年ニナリアンスヨウニ

伊豆諸島（新島）（宮川 清み）

- ① ヤアイ イシャア キョウ タンジョウビ ダッチュウジャ
ギンキダナー オメデトウヨー
- ② ヤアイ コノイチネンガ イシニトッティ イイトシニナウト
イイナーヨ

八丈（八丈島）（川上 紗子）

- ① 才誕生日オメデトウゴザイマス
- ② コノ一年ガオメエニトッテ、ヨケ年デアロゴンニ

※ ①は直せないので、このまま。

奄美（奄美大島）（鈴木 るり子）

- ① ウマレビ アリヨ ヲリィヤ イッチャリヨヲタ
- ② クウン 一年ヌ ナミイン ヲティ イイ年 アリヨヲンガヌシ

奄美（喜界島）（中馬 正登志）

- ① <生活の中に誕生日を祝う言葉はありません>
- ② フン トウシガ°、ダニム ユカ トウシニ ナルンヨーニ。
（「ガ°」：鼻濁音の「が」）

国頭（沖永良部島）（田邊 ツル子）

① 方言では、「お誕生日、おめでとうございます」を直接表現する語がない。

※高齢の方には、

「〇〇歳、良かったですね（嬉しいですね）。これからもお元気でいらして
ください。」

「〇〇 ユカ アヤブンヤー。（ホーラシャアヤブンヤー） ナマカラム
ドウクサシー ウモリヨ」

7歳のお誕生日でしたら、

「もう7歳にもなって、大きくなったね」などと声をかける。
「ナー ナナチニム ナッティ フディタンヤー」

② フタビム ウイニトウッティ ユカトウシー ナイヌグトウ
ネガトウヤブンドー

国頭（与論島）（菊 秀史）

① ウマリビームッケーティ ユカティガナシエービュイ

② フトウシナーク ウレーナン ユカフトウバイアウンガネー
ニゴートウヤビュン

国頭（今帰仁村）（島袋 幸子）

① ?マーリビーヌ ユーエードー カフーシドー

② ナマカラヌ ピービーヤ ウンジュニ トゥティ ウガングトウ
アラシミソーリヨ

沖縄（那覇）（高良 ひとみ）

① カリュシヌ ウマリビー グスージサビラ

② ウンジュヌ クンドウ 1ニンヌ ユガフドゥシンカイ ナイルヨウ
ウガマビラ

宮古（伊良部島佐良浜）（普天間 一子）

① ンマリ ビー ヤー フラカスムヌ イー

② ンナマカラヌ 1年マイ マタ ウヴァガ タミン ジャウトゥヌ
トウスヒー フィサマティヨー

宮古 (多良間島) (島袋 梅子)

- ① ム° マリプスー、 プカラシャナー
② クーズー トウスマイ ッヴアンヤ トーティー イートウン
ナリ° ヨーンナー

※ 直訳すると、①生まれ年、うれしいね。 ②来る年もあなたにはとてもよい年になるようね。

八重山 (石垣島四力字) (黒島 健)

- ① マリビィーバ ンカイヨーリ スディガフュー
シャニシャシー ユルクビィ ウルユー
② クヌ イチニンヌ ウンジュカイ アッパレートウス
アラスメータタボーリ

八重山 (石垣島白保) (金嶺 光江)

- ① キュヌ マーリビ キッシニ イイクトゥユー
② クヌトウシヤ ダンゴヤ イイトウシ アライダボラリュー

八重山 (竹富島) (大山 榮一)

- ①
②

八重山 (黒島) (宮良 哲行)

- ① マリドシバンカイ イークトゥユー
② クトシ ウバア イイコトラ

八重山 (西表島) (川平 永光)

- ②
②

与那国（与那国島）（田頭 英政）

- ① マリチ チデインガブ。
- ② クヌトゥチヤ ンダンキ マッチャル
イイトウチンディ アイタバイビ
ニンカ[°] イ ツアリル。

アイヌ語（樺太方言）（楠木 スクシ）

- ① オホタ エシカハ ト一 アネエコプンテヘカラ。
- ② タンパ エエピリカ クニ カムイ クオリタコ。

<●シーン2：Aさんがお裾分けのため

Bさん宅を訪問した時のやり取り>

- ① A「ごめんください。いますか？」
- ② B「はーい、あっ、こんにちは。」
- ③ A「あら、お出掛けですか？」
- ④ B「そう、ちょっと買い物に。」
- ⑤ A「これっ、もらひ物だけど、お裾分けしようと思って。」
- ⑥ B「あらっ、ありがとう。どなたから？」
- ⑦ A「ちょうど、兄が万博に行ってお土産だと持ってきてくれて。」
- ⑧ B「そうなんだ。」
- ⑨ A「万博は暑くて大変だったみたい。」
- ⑩ B「ニュースでも言っていたね。」

* AさんとBさんは親しい同年代

■南部 (柾谷 伸夫)

- ① A 「マイドサンデアンス。オンデッテアンシタガ~イ？」
- ② B 「ハ~イ。アリヤ、オンデアンセ」 (いらっしゃいませ)
「ハ~イ。アリヤ、マイドサンデアンス。」 (こんにちは)
- ③ A 「アリヤ、デッパナデアンシタガイ？」
- ④ B 「ホンデアンス。チョコットマヂヅゲニナンス。」
- ⑤ A 「コレアナス、モライ物デアンスンドモ、
オ裾分ゲスペガド思イアンシテナス」
- ⑥ B 「アッリヤ~、申シ訳 (ワグ) アリアンセンナス。
シテ、ドチラサマガラデアンスベ？」
- ⑦ A 「チョンドナス、アンチャガ万博サ行ッテ、
オ土産ダドヘッテ持ッテキテクレアンシタンダ。」
- ⑧ B 「ホンデアンシタノガイ。」
- ⑨ A 「万博ア、ヌグクテ、コドデアンシタヨッタナス。」
- ⑩ B 「ニュースデモ、ヘッテオリアンシタエナス。」

■新島 (宮川 清み)

- ① A 「コーンチワ ヤーイ イタカヨ」
- ② B 「オ~イ イヨ イタヨ イタヨ」
- ③ A 「イ~ヨ イシャア ディカキューダカヨ」
- ④ B 「オ~ヨ チョット ツケエーニ イッティクルヨー」
- ⑤ A 「コラー マライムン ダケーモ イシゲーモ キイロート
オモッティヨー」
- ⑥ B 「イヨ アイガトウ イシャア ダイニ モラッタダヨ」
- ⑦ A 「チョウドナ アンキガ バンパクイ イッチョウ
ソイディ ミヤギョー モッティキティ キイタダヨー¹
イシゲーモ クワシタクティ モッティキタダヨ」
- ⑧ B 「ヤア~イ ソウラカヨー アイガトウヨー」
- ⑨ A 「バンパクア~ ヤアイ イシャア アツクティ
タイヘンダッタチュウヨ
サアギ ダッタミタゲーダヨ」
- ⑩ B 「ソウイイバ ニュウスディモ ユッティタナ~ヨ」

八丈島 (川上 純子)

- ① A「メイララーイ オジャリヤローカイ？」
- ② B「オーウ アイ ホトウリタソワノー。」(暑い日)
B「オーウ アイ コゲエイタソワノー。」(寒い日)
B「オーウ アイ ハタラキヤロジヤ。」
B「オーウ アイ ハタラキヤロカー。」
- ※ 「こんにちは」の言葉は、季節によって変わる。
- ③ A「アイ、 ドコゲエカ オジャロカ？」
- ④ B「オウ、 チョックラ 買イ物ニノウ。」
- ⑤ A「コリィ モライモノダイドウ チイトオメエニモ
アゲロウカト思ッテ。」
- ⑥ B「アレエ、 オカゲサマヨウ。ダイカラカロウ？」
- ⑦ A「チョウドハ アセイガ万博ニ オジャッテノウ 土産ダラッテ
持ッテ来テ タモウロウダラ。」
- ⑧ B「ソゴンドウカ。」
- ⑨ A「万博ハ キビガアリイナコト ホトウタミタイデ
テイヘンダットウゴンダラノウ。」
- ⑩ B「ニュースデモ 言ッテ アララアノウ。」

奄美 (奄美大島) (鈴木 るり子)

- ① A「ウンニヤ？」
- ② B「ウッドワー アレ ウガミンショロー。」
- ③ A「アレ、 ダーチカ イジィバロウチナ？」
- ④ B「イーン イットマッグア カイムンシイカ。」
- ⑤ A「クッラア ムラタムン ジャス ニヤーリ ヲエーロウーチ ウモテ。」
- ⑥ B「ハゲエー ウブクリド ターメエラ ヨ？」
- ⑦ A「ナマッグア アニヨガ バンパク イジャンチイ イチ
ミヤーゲエ ムシチ クリティ ド。」
- ⑧ B「ガッシナア。」
- ⑨ A「バンパクヤ フミイチイ ガッシイ アクセエ シヤン チド。」
- ⑩ B「ニュースソ シン イユウタヤ。」

奄美（喜界島）（中馬 正登志）

- ① A「ホーイ、ウンニヤ？」
- ② B「ウンドー。」
- ③ A「イジルン ドールジャヤー？」
- ④ B「イン、ミシヤニ。」（うん、店に）
- ⑤ A「ウリ、ムラタン ムン ジャンケド、ダニム エエーローッチ
ウムティ」（エエ➡ヤ行の「エ」）
- ⑥ B「ウブックリ。タルカラ？」
- ⑦ A「ソードウ ニーガ° バンパクニ イジ ミヤギチ ムッチ チー
クリティ。」（「ガ°」：鼻濁音の「ガ」）
- ⑧ B「アッシナ。」
- ⑨ A「バンパコー アツサヌ タイヘン アタン ナッスン。」
- ⑩ B「ニュースジム イチュタン ムンヤー。」

国頭（沖永良部島）（田邊 ツル子）

- ① 「ごめんください」にあたる語がない。

※人の家を訪ねる時には、以下のように言う。

「ここの家（の人）、いますか？」
「フマヌヤー。ヲウンニヤ。」

- ② こんなちは：「ヲウガミヤブラ」はあまり使われていなかった。

※その時の状況で会話することがあいさつになっていた。「どこ行くの？」とか「どこ行ったの？」
とか「暑いね」とか。

「はーい、あら、これたの」
「ホーイ、アベアベ フーラティナ。」

- ③ A「アベ、ウダガチヨ？」
- ④ B「ナイ カイモノガチ。」
- ⑤ A「ウリ、ムロイムン ヤーシガ、ナイ ライラーディミティ。」
- ⑥ B「アベ、ミヘディロ。タンカラヨ？」
- ⑦ A「フヌヤ、ミーガ 万博ガチ イジ ミヤーギディチ ムッチキチ
クリティ。」
- ⑧ B「ガンナー。」
- ⑨ A「万博ヤ アツツアヌ ショーヌギタヌグトウ アン。」
- ⑩ B「ニュースネティム ガイチュタンヤ。」

国頭（与論島）（菊 秀史）

- ① A「サービタン。ヤーナンフンチゲーラ。」
- ② B「ホーイ、アッ、キチャンミー。」
- ③ A「イッ、イジランチイー？」
- ④ B「ガン、アマク ヘームヌシンヤ。」
- ⑤ A「フリヤー ムロータルムヌエーシガ ワイランチムーティ」
- ⑥ B「ワイ、トートゥガナシ。タルシナカラガ？」
- ⑦ A「ヤカガ 万博カティ イジティー ミヤーギチチムチキュータン。」
- ⑧ B「イエー、ガンイー。」
- ⑨ A「万博ヤ シッカイ アチサヌ ャッケーエータイギサイ。」
- ⑩ B「ニュースノンティン ユミュータンヤー。」

国頭（今帰仁村）（島袋 幸子）

- ① A「エーサイ。 ウンナー。」
- ② B「オーケイ。 アイ、チャンナー。」
- ③ A「アイー、ダーチガサー。」
- ④ B「ダー、ヨイ、ホイムンシーガー。」
- ⑤ A「ウリー、?チューラヌ ' イームン エーシガ、ワキティ
トウラサーディ ウミティヨー。」
- ⑥ B「イー、ニヘーデービル。 ダーカラガサー。」
- ⑦ A「チョールヨー、ワッタ ニーニーガ オーサカヌヌ バンパクチ
イジーラ シトウー ディチ ムッチチ トウラチヨー。」
- ⑧ B「エー アイル エンナー。」
- ⑨ A「バンパクヤ ドウク アチサヌ デージ エーテーヌ プージードー。」
- ⑩ B「テレビンティン アイ ?ユータンヤー。」
- ⑪

沖縄（那覇）（高良 ひとみ）

- ① A「チャービラタイ。 メンシェビーガヤー？」
- ② B「ハーイ、アリッ、チェーサヤー。」
- ③ A「アイー、マーガランカイ イチュンディソーンナー？」
- ④ B「イー、イフィグワー コームン シーガヨー。」
- ⑤ A「ウリ、 イイテーシヤシガ、 ワキワキサナヤー
ンディウムティヨー。」
- ⑥ B「エエー、ニフェードー。 ターカラヤガ？」
- ⑦ A「ナマヨー、 イキガシージャガ、 万博ンカイ ンジチャーア
ナージムンリチ ムッチチ クィテースバーヨ。」
- ⑧ B「エエー、アンシ。」
- ⑨ A「万博ヤ アチサヌ デージヤテール フージ ドオー。」
- ⑩ B「ニュースカラン イチョータンヤー。」

宮古（伊良部島佐良浜）（普天間 一子）

- ① A「ハーイ ウリードウイナ？」
- ② B「オー、アイ ナウヤイバ。」
- ③ A「アガイ！ イジャガランカイドウ イディビキナ？」
- ④ B「ンディ ヒーチャ ムヌカイガティーヨ。」
- ⑤ A「クリヤー ッタジタイムヌ ヤイスガ バキー フィーディティドウ
ウムイーヨ。」
- ⑥ B「アガインミヤ！！ スディガホウ。 タルカラ ヤイバ？」
- ⑦ A「ガフ、 スジャガドウ バンパクンカイ イキーッタイティ ツトウ
ムチッティ フィーダーイヨ。」
- ⑧ B「アイヌ バーナ。」
- ⑨ A「バンパクウー アツカイバ ダイズドウ アタイ チヤ。」
- ⑩ B「ニュースンマイドウ アッジィドウ ウタイー。」

宮古 (多良間島) (島袋 梅子)

- ① A「アグー、 ヤーン ブリ。ナー？」
(直訳：[同級生]、家にいるの？)
- ② B「ハーイ、 アガイ、 ッヴァナー。」
(直訳：はーい、あら、あなたか。)
- ③ A「アガイ、 トウンディグマタ？」
(直訳：あれ、でかけるべき？)
- ④ B「ンー、 イピッチャ一 ムヌコーラ。」
- ⑤ A「クレー。 ユイムヌ アリ。 ルガドウ バキヤ一 シューンナティ
ウムートウイ。」
- ⑥ B「アガイ、 スティガプー。 ターガガ ッフィ ワーリ。 タリ。？」
(直訳：わあ、ありがとう。誰がくださったの？)
- ⑦ A「チョードウ、 アジャガ バンパクンケー イキータリ。 ティー
ミヤギウ ムティー クスタリ。」
(直訳：ちょうど、兄さんが万博へ行ったと、土産を持ってきた。)
- ⑧ B「アンシーナー。」
- ⑨ A「バンパコー、 アッチャン ダイズドウ アタリ。 ガヤウ。」
- ⑩ B「ニュースンマイ アニータリ。ナー。」
(直訳：ニュースでもそのように（言って）いたね。)

八重山 (石垣島四力字) (黒島 健)

- ① A「クヨーマナーラ、 (ナマ ヤーンガ) ウンカヤ？」
- ② B「オ一イ ミシャーロールンネーラー。」
- ③ A「ハ一、 イディ ハルン？」
- ④ B「アンジ、 ウメーンマ カイムヌ シナ ハルンデ。」
- ⑤ A「ウレー、 イームヌヤソンガ、 バギスーンデドウ ウムイ
ムチキーダ。」
- ⑥ B「アンジー、 ニーファイユー。 タルカラドウ？」
- ⑦ A「ガツツリ沖 シジャヌ バンパクカイ ハリテ ツトウデ
ムチキーヒヤーリテ。」
- ⑧ B「アンジッチチョ。」
- ⑨ A「バンパクヤ アツツアーリテ デージィヤダヨース。」
- ⑩ B「ニュースデン アンジ アンキウダラー。」

八重山（石垣島白保）（金嶺 光江）

- ① A「ミシャロルンカヤー？ オールン？」
- ② B「ターカヤ？ タードゥ ヤロルンカヤ？」
- ③ A「マナガラ ンディフチドゥ ヤロルン？」
- ④ B「オ一 ベービィ ケームヌ トウメルンテエニ。」
- ⑤ A「ウリニ シイトウ ヤリキ ベービィ ムチイクタンユ。」
- ⑥ B「フクラハーユー ターカラカヤ？」
- ⑦ A「マナドゥ シャンドゥ 万博ゴンキ シイトウ ムチイクタンドオ。」
- ⑧ B「エニー。」
- ⑨ A「万博ヤー キッシニ アツツアハートウ デージ ヤリンギシャロ。」
- ⑩ B「ニュースシ エニ エネンタンドオ。」

八重山（竹富島）（大山 榮一）

- ① A「」
- ② B「」
- ③ A「」
- ④ B「」
- ⑤ A「」
- ⑥ B「」
- ⑦ A「」
- ⑧ B「」
- ⑨ A「」
- ⑩ B「」

八重山（黒島）（宮良 哲行）

- ① A「ブンカヤー？」
- ② B「オ一 ワールンカヤー。」
- ③ A「マルマ ソジタチ？」
- ④ B「アイ イメミ ハイムヌユ一。」
- ⑤ A「ウリニ イーリムヌド アルヌドウ バキルンティ ウムイブー。」
- ⑥ B「アイ フコラサーユ タハラヤ？」
- ⑦ A「シージャー ヌドウ 万博ギッテ イーヤルバ ムティケー
トウリ イージダ。」
- ⑧ B「アイユ一。」
- ⑨ A「万博ヤ アチャトリ デージ ドアレー。」
- ⑩ B「ニュースナン イジブリタン。」

八重山（西表島）（川平 永光）

- ① A「」
- ② B「」
- ③ A「」
- ④ B「」
- ⑤ A「」
- ⑥ B「」
- ⑦ A「」
- ⑧ B「」
- ⑨ A「」
- ⑩ B「」

与那国（与那国島）（田頭 政英）

- ① A「ス ウカ[。]ム。ブルカヤ？」
- ② B「ウォ、イヤッ、ウカ[。]ム。」
- ③ A「ヤ、フガンキ トウンディルンディ？」
- ④ B「イセ、アマティ ムヌカインディ。」
- ⑤ A「クミ、タバラリルムヌ アイビ、バギルカヤンディ ウムイティ。」
- ⑥ B「イヤッ、フガラサ。タガラカヤ？」
- ⑦ A「イイバス、スナティカ[。]万博ンキ イティティ
ミヤンギ ムヌンディ ムティスタバ。」
- ⑧ B「ウンニドウ アタルナイ。」
- ⑨ A「万博ヤ アツツアビティ デイヤディドウアタル アティカ[。]イ」
- ⑩ B「テレビ、ラジオガラ ンディブタンエー。」

アイヌ語（樺太方言）（楠本 スクシ）

- ① A「イランカラハテ。エアニヒ？」
- ② B「ホー、イランカラハテ。」
- ③ A「ター、ナケネ エオマン クス？」
- ④ B「エー、クイホホ クス ポンノ クオマン。」
- ⑤ A「タンペ、アネウンケライペ ネー コロカ、アネコウサライエ ナハ
アンラム。」
- ⑥ B「ター、イヤイライキレ。ナータ オロワ？」
- ⑦ A「ユフポ 万博 オンニ オマン ワ タニ イモカ コロワ エヘ。」
- ⑧ B「エユフポ オマニヒ クワンテ。」
- ⑨ A「万博 オホタ オマニヒ ネアンペ セーセヘ テヘ ヤイシンカレ
マヌ。」
- ⑩ B「ニュース オホタ カ イエー エヌ？」

実際に<●シーン2>のやり取りを行うペアと配役

Aの役 — Bの役

【ペア1】 新島(宮川清み) — 沖縄(高良ひとみ)

【ペア2】 沖永良部(田邊ツル子) — 多良間(島袋梅子)

【ペア3】 八丈(川上絢子) — 石垣・四力字(黒島健)

【ペア4】 伊良部(普天間一子) — 黒島(宮良哲行)

【ペア5】 喜界(中馬正登志) — 西表(川平永光)

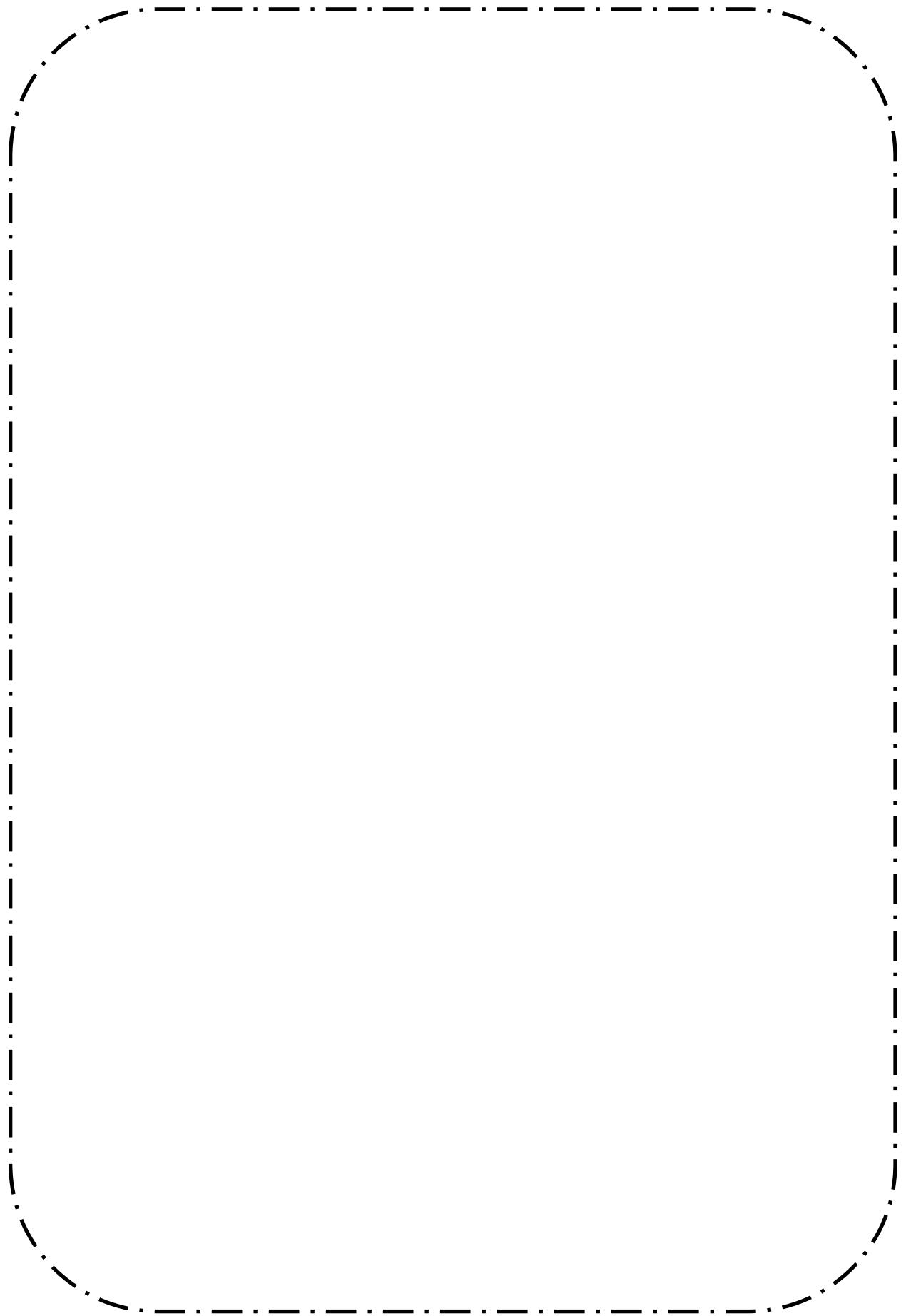
【ペア6】 奄美(鈴木るり子) — 竹富(大山榮一)

【ペア7】 与論(菊秀史) — 与那国(田頭政英)

【ペア8】 アイヌ(楠本スクシ) — 今帰仁村(島袋幸子)

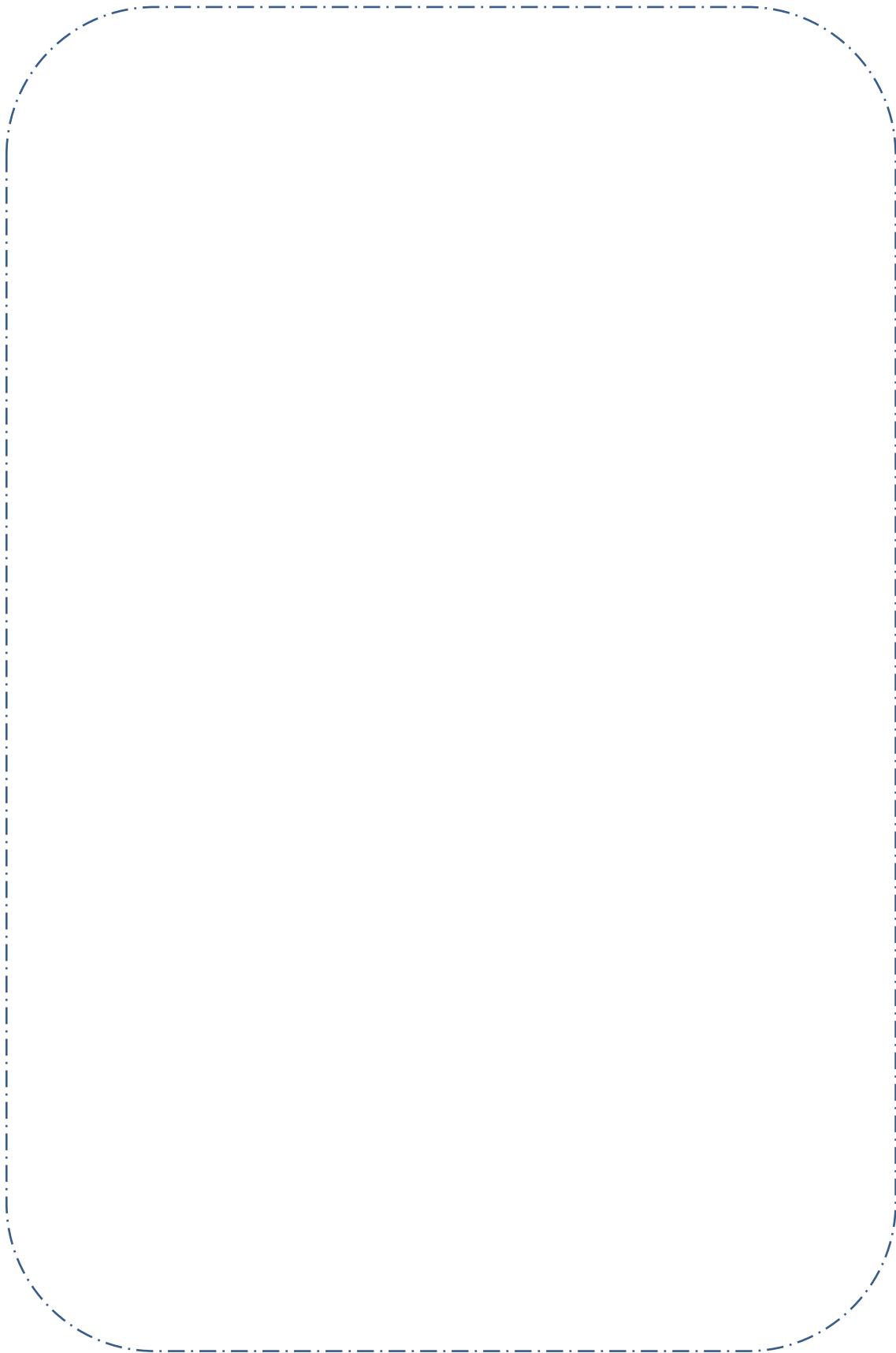
【ペア9】 南部(柾谷伸夫) — 石垣・白保(金嶺光江)

※ ペアごとのやり取りのテキストは、話者用に個別に準備します。



1日目

危機言語・方言による 表現披露 1



しなどうりきよんぎん 品取狂言(祖納)

*演目あらすじ

品取狂言は祖納に伝わる伝統芸能の一つです。通常は敬老会において、お年寄り方の一層の健康と長寿を願い演ぜられます。

山の幸、川の幸、海の幸の品々を採りに行く情景、豊かな大自然に恵まれた西表ならではの狂言として面白く、あらすじは次のようにになります。

「今日は『敬老の日』を迎えて、誠にお目出度いことです。今日の日を祝うために、御馳走もたくさん用意しなければなりません。若者たちは役割を決めてそれぞれ海、山、川へ行き、品取りをする」という光景を演じるものです。

～以下省略～。

※それぞれの役割を演じるとき、おもしろ、おかしくユーモアあふれた各自の個性が即興的に存分に發揮されることが品取狂言の面白さのカギとなります。

*石垣金星著「西表民謡誌と工工誌」79頁より

昔、祖納のご先輩方が「ばしま芸能団」として沖縄本島で公演した舞台(御主前・那根格さん)を基にし、スネヤのアッパーのマインダナー^{ヨイ}祝(97歳のお祝い)の品取狂言として、今回の台本を制作しました。

祖納公民館出演者

【役者】

御主前(ウシュマイ)	那良伊 隼人
子・バラピ倒し(バラピトーシ)	古見 将司、大城 千英
子・キゾ搔き(キゾかき)	星 しづ、荒木 涼子、星 洸人、古見 茉
子・魚巻き(イユマヒ)	星 光、屋 正美、隅田 賢
子・山猪捕り(鈎猟)(カマイトウリ)	荒木 和友、金城 孝、古見 天
子・鰐掴み(オーニチカミ)	東浜 正、上亀 直人、松山 忠明、崎原 朝光

【地謡】

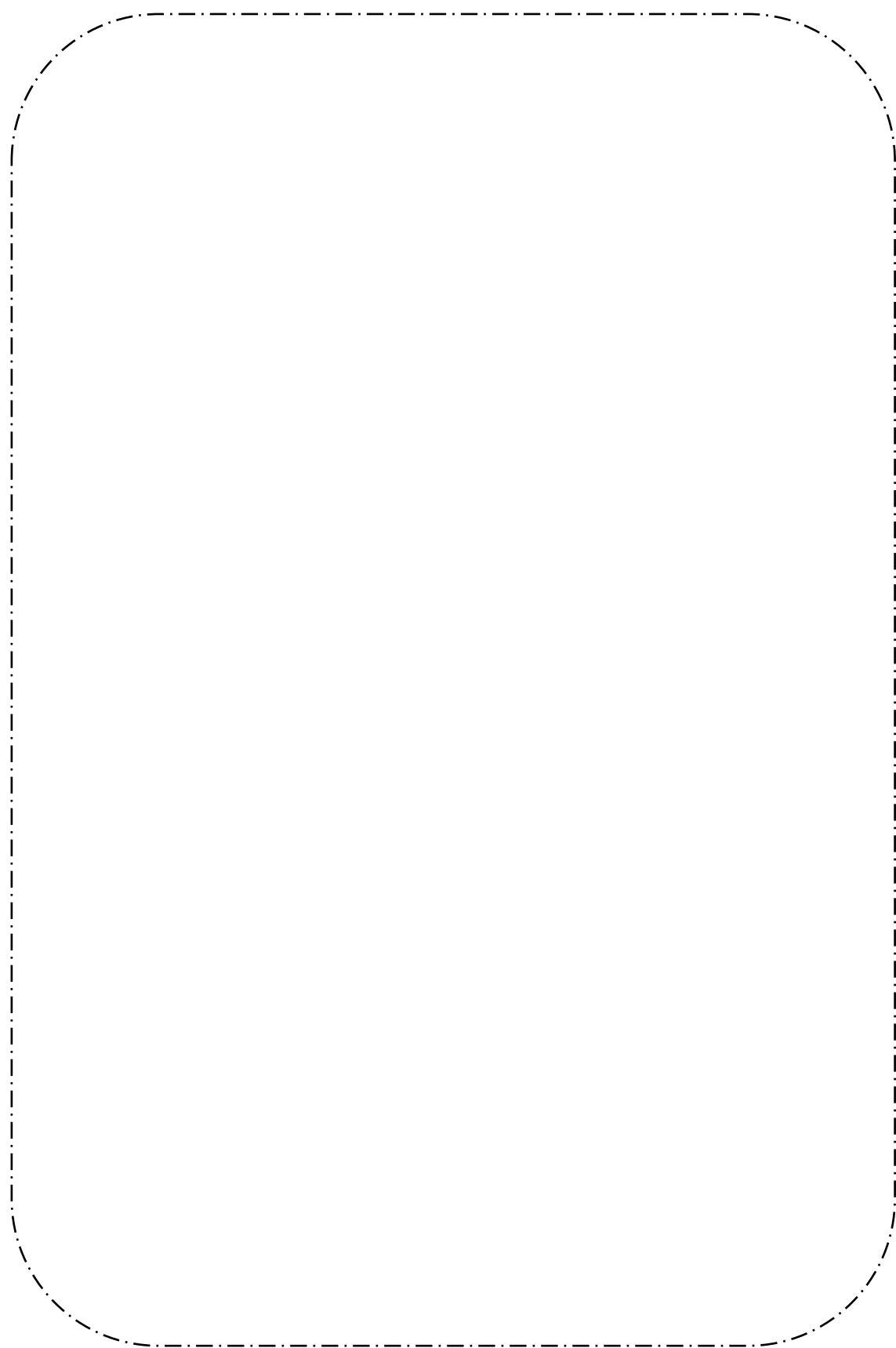
三線	曾根田 真、下地 周平
太鼓・拍子木	黒島 みほ、荒木 みさ
笛	大城 茂智

【着付け】 星 しづ

【道具係】 古見 天 ほか

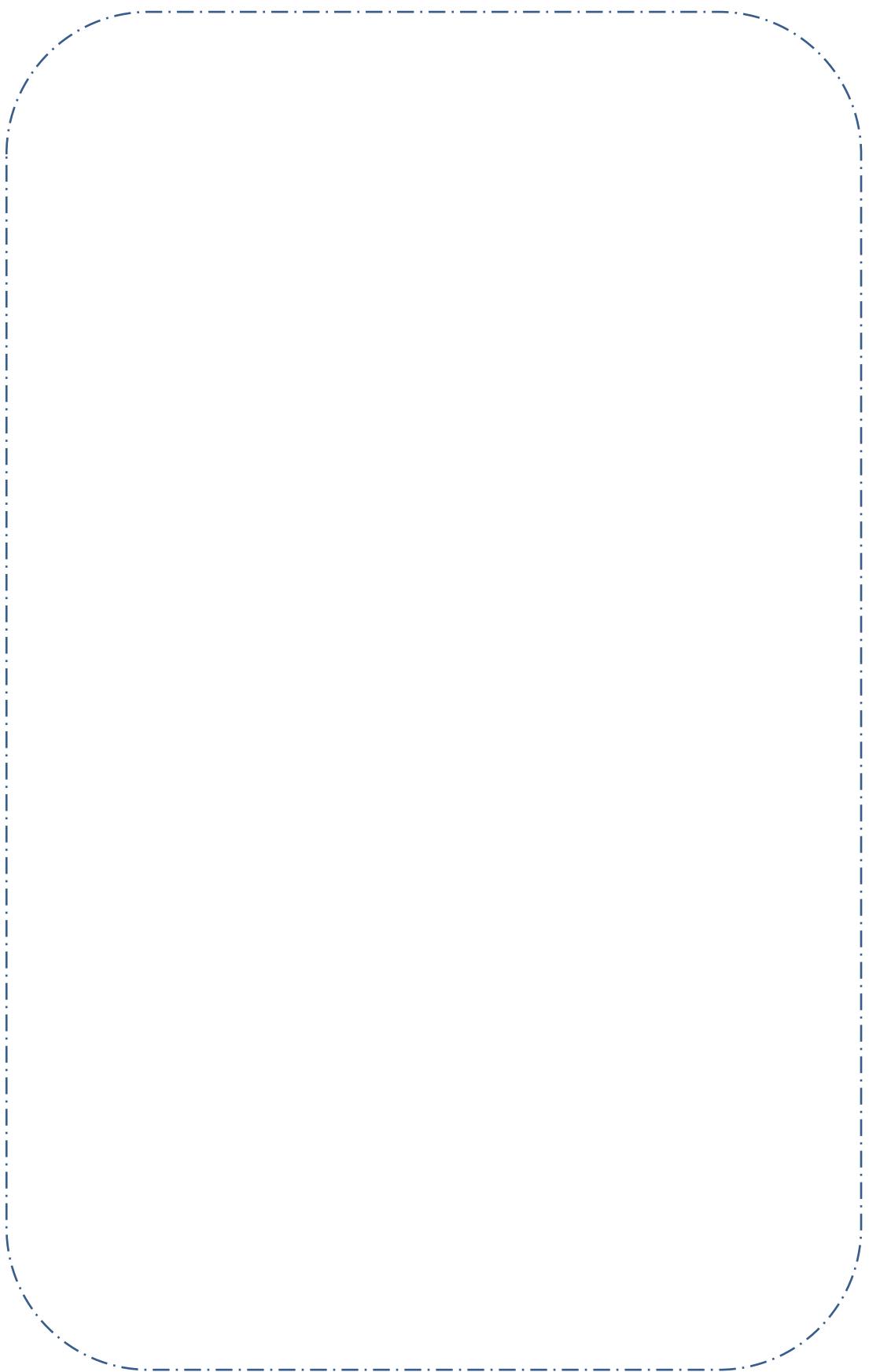
危機言語・方言による表現披露1（八重山） スマムニ方言劇「アンパルヌ ミダガマ」

石垣島の西側に名蔵湾という景勝地があります。そこに広がる干潟は「アンパル（網張）」と呼ばれラムサール条約の登録地です。そこには沢山の魚介類などの生き物が暮らしています。そこに棲息する蟹たちの生き様から八重山の昔の人たちは楽しい創造力を膨らませて「アンパルヌ ミダガマ ユンタ」という古謡を創り出し歌い親しんできました。その歌中では12年に一度の人生最大の行事「ショーニンヨイ（生年祝い）」にアンパルの蟹たちを登場させ祝宴の配役に15種類の蟹たちをその特徴からそれぞれ担当させました。当時は琉球王国からの人頭税という重税に苦しんでいた農民たちでしたが、アンパルの八重山の蟹たちから生きる勇気と希望をもらい生きていました。その古謡「アンパルヌ ミダガマ ユンタ」に描かれた世界を石垣島の島言葉「スマムニ」で方言劇を演じます。



1日目

ブースアピール
～
ブース発表



ブース発表の内容紹介

<場所:大1=大ホール1階、大2=大ホール2階、展示=展示ホール>

- ブース01:エジプトのコプト語と台湾のタロコ語の復興運動とAIの活用(大1)
宮川創
コプト語、ヌビア語、タロコ語の継承活動を紹介するポスター
- ブース02:「言語の島」静岡県北部・井川方言の現状と継承活動(大1)
谷口ジョイ
ポスター、書籍展示、ノベルティー配布
- ブース03:地域との協働による多良間方言を「つなぐ」取り組み
-絵本・紙芝居・カルタの制作と活用-(大1)
下地賀代子、波平雄翔、桃原光盛
多良間島とその言語を紹介するポスターの掲示、絵本など関連資料の展示
- ブース04:方言辞典を作る 波照間方言辞典・宮古大神方言辞典(大1)
金田章宏、大嶺高安、伊佐照雄
波照間について、著者の膨大な手書きの資料を展示、苦労話など。
大神島について、製作途中の資料を展示予定。
- ブース05:各地方言収集緊急調査のデータ整備(大1)
大島一、黄海萍
文化庁「各地方言収集緊急調査」方言談話資料整備を紹介するポスター
- ブース06:八丈島の取り組み(大1)
茂手木清、林薰
八丈語継承活動を紹介するポスター、書籍、かるた、配布資料の展示等
- ブース07:沖永良部語“しまむに”LINEスタンププロジェクト(大1)
高智子、田邊ツル子、西啓亨
沖永良部語“しまむに”LINEスタンププロジェクトを紹介するポスターと展示

- ブース08:中学校の給食時間に行うみやーくふつ(宮古語)の種まき:
言語教育プログラム『一日一語みやーくふつ』4年間の蓄積(大1)
藤田ラウンド幸世、謝敷勝美
宮古語継承のための学校給食での「一日一語みやーくふつ」、4年目の課題
- ブース09:沖永良部島:小学生のための CEFR can-do に基づく
しまむに進級表試行と学習カルタ作成計画(大1)
岩崎典子、西啓亨
沖永良部島の小学校における実践(Can-do 進級表、教材(カルタ)作成)の計画～子どもたち
が島のことばを日々楽しく使うことを目指して
- ブース10:小浜島絵本の紹介(大1)
花城正美、白保椋之、クリス・デイビス
小浜島の絵本の紹介ブース
- ブース11:カナダにおける先住民言語の活性化(大1)
カナダ大使館
カナダの先住民族の言語の活性化を紹介するポスターの掲示
- ブース12:沖永良部島の辞書作り(大1)
横山晶子、稻博美、前幸貴、西田真弓
(1)沖永良部田皆集落の辞書つくり:ポスター、実物、動画、コースター等
(2)玉城集落の辞書作り:ポスター、実物、動画等
- ブース13:やいむに映像プロジェクト『教えて慶子さん』
～未来の話者のために種をまく～(大1)
入嵩西千鶴子、田安苗子、白保椋之、藤田ラウンド幸世
島のことばを教えて、慶子さん:八重山語のレッスン
- ブース14:かだるびや・かだるべし青森県の方言(大1)
今村かほる
被災地方言における取り組みについてのブース発表。茨城大学、岩手大学と語りの会を中心と
した取り組みについて、語りの動画や文字化資料、写真などを展示発表。また、青森県語り部
ネットワークの設立から10年の歩みについてまとめる。

●ブース15:南部弁コーナー(大2)

柾谷伸夫

南部昔コ集 I (CD の昔コ語り付き)、南部昔コ集 II (CD の昔コ語り付き)、南部弁会話集
「あのなっす南部弁」(CD の昔コ語り付き)、「鮫 残照」展示、壁にポスター掲示、CD を出して
おいて自由に聞いてもらう。

●ブース16:やんなきゃない！ 宮城県名取市「方言を残そう会」の軌跡

—東日本大震災とコロナ禍を越えて—(大2)

櫛引祐希子

2009 年に創設された宮城県名取市の「方言を語り残そう会」は、2011 年の東日本大震災で
甚大な被害を受けた地元の方言を活用し、仮設住宅での慰問や震災を詠んだ方言句集・
詩集・文集の作成に取り組んできました。また、郷土料理を方言で紹介する動画の制作や
コロナ禍をきっかけにした方言書簡集も作成しました。このブースでは、創設以来、「方言を
語り残そう会」が携わってきた方言による社会貢献活動を紹介します。

●ブース17:東日本大震災被災地域方言の保存・継承の取組み:

茨城県を中心に(展示)

杉本妙子

2011 年3月の東日本大震災の被災地方言のうち、関東方言に属する茨城方言では、東北
方言に比べて保存・継承についての意識が希薄だと思われる。それは、茨城方言そのものへの
地域住民のマイナスイメージの強さに関係するものと考えられる。そこで、茨城方言の保存・
継承への取り組みでは、自方言へのプラスイメージにつながると思われる活動を継続的に行っ
ている。その一つが方言かるたであり、本発表では方言かるたの取り組みを中心に発表を行
う。具体的には、「茨城方言かるた」と同解説書の紹介、かるたの実践の紹介、小学生アンケー
ト結果等、及びその他の茨城の取り組みを報告する予定である。

●ブース18:伊豆諸島 新島方言(大2)

宮川清み、山本新、開田萌弘

新島の方言の、面白い単語などのポスターと、生き物のイラストをそえたポスターを掲示しま
す。また、新島村の3地区(本村、若郷、式根島)の方言を集めた冊子を用意します。

●ブース19:松山市ことばのちから実行委員会

「ことばのちから」でまちづくり(展示)

五百木幸子、河野博仁

松山市は、2000年から「ことばのちから」をキーワードにしたイベント事業を展開し、「ことばを大切にするまち松山」の魅力を全国に発信しています。

ことばのちから実行委員会のこれまでの活動記録や直近の活動報告、そして「俳句甲子園」や「坊っちゃん文学賞」など、松山市の「ことば」を生かしたまちづくりをご紹介します。

●ブース20:沖縄県しまくとうば普及センター(展示)

沖縄県しまくとうば普及センター

沖縄県におけるしまくとうばの普及継承に関する施策の紹介

●ブース21:アヌココロ アイヌ イコロマケンル 国立アイヌ民族博物館(大1)

深澤美香

北海道の白老町にある民族共生象徴空間ウポポイは、アイヌ語が第一言語です。本ブースでは、ウポポイの主要施設のひとつである国立アイヌ民族博物館とアイヌ語に関する取り組み事例をご紹介します。

●ブース22:台湾における少数言語(展示)

井口康弘、周邦蓉

・原住民族アミ族の言語復興の取り組みについて。

・客家ルーツの珈琲豆農家のコーヒー提供と、3言語(台灣華語、台灣語、客家語)での紹介。

●ブース23:しまくとうば NFT プロジェクト(大2) ー取りやめー

琉球朝日放送

●ブース24:団体で行っているスマムニ、クガニムニかるた(大1)

ひさいぶなりう会

●ブース25:メーラムニ(宮良方言)の継承活動(展示)

メーラムニあんず会

●ブース26:石垣の民話を伝える活動(大1)

八重山商工高等学校

●ブース27:しまむにであそぼう(大1)

しまむに伝承研究会

●ブース28:懐かしいしまむにゆ想い出しあんきみゆシウマムニ！(展示)

石垣老人クラブ尚寿会スマムニショーラ会

●ブース29:しまむにの啓発普及と継承活動(展示)

石垣市文化協会しまむに部会

●ブース30:八重山にこだわり、方言も多用し、

出版業務に携わってきた足跡の紹介(大1)

南山舎

●ブース31:しまむに缶バッジ作成体験(大2)

八重山商工高等学校

●ブース32:継承の試み(スタンプラリー、まちなか探検、替え歌等)(大2)

スマムニ広め隊

●ブース33:石女連とスマムニの軌跡(展示)

石垣市女性連合会

●ブース34:活動報告(大2)

ホーマムニ伝承会

●ブース35:竹富町での活動報告(大1)

竹富町

●ブース36:どうなんちま(与那国島)(大2)

与那国町

2025年度4月から9月までの島内での取組について

*各ブースの位置は、会場平面図にて御確認ください。

展示ホール内「パフォーマンスブース」のタイムテーブル

●パフォーマンスブース①

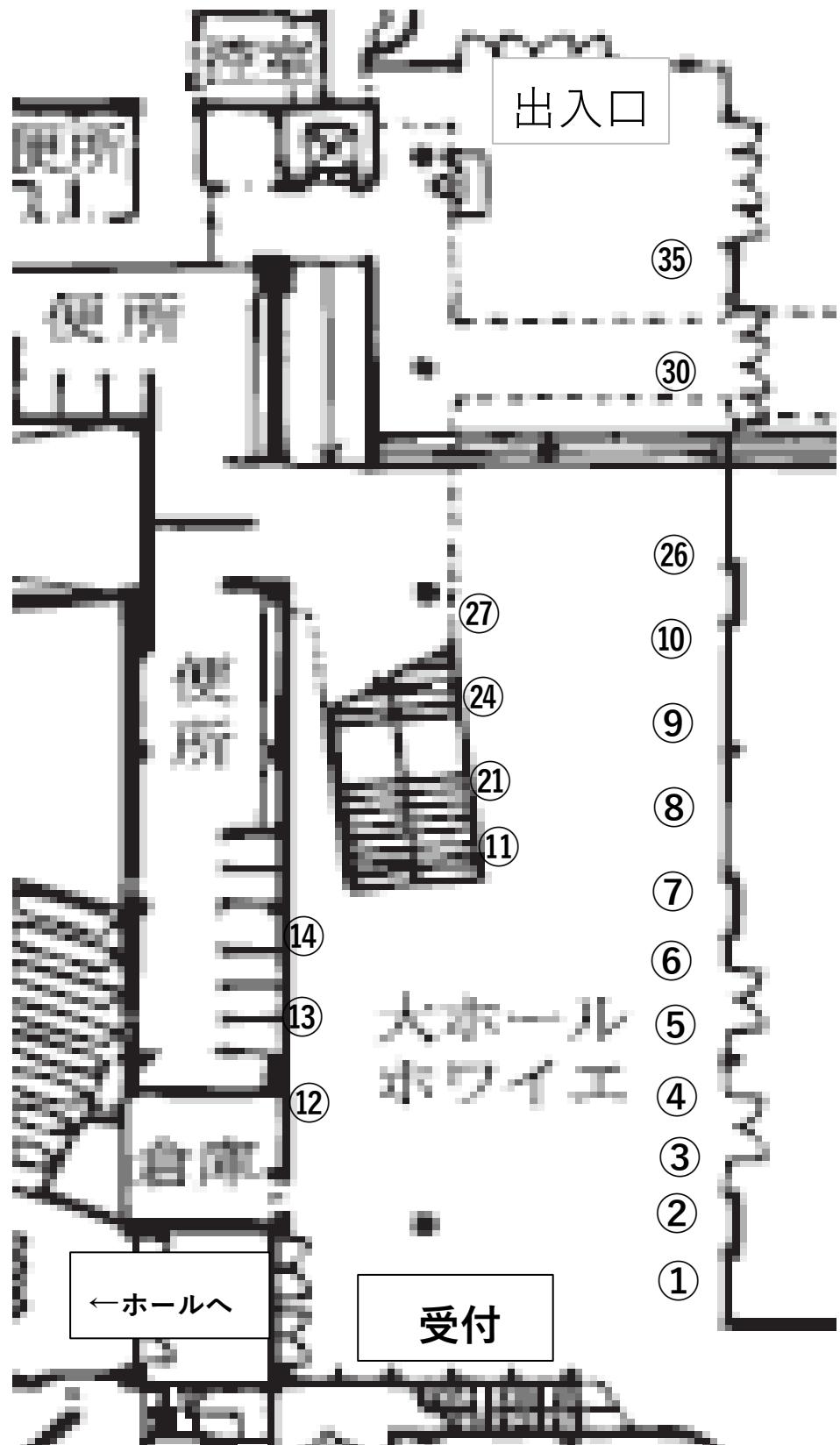
	発表者	内容	時間
1	谷口 ジョイ	紙芝居上演（井川）	15:50-16:15
2	花城 正美	絵本・紙芝居の読み聞かせ（小浜島）	16:15-16:40
3	深澤 美香	だれでもアイヌ語教室	16:40-17:05
4	メーラムニあんず会	メーラムニ	17:05-17:30

●パフォーマンスブース②

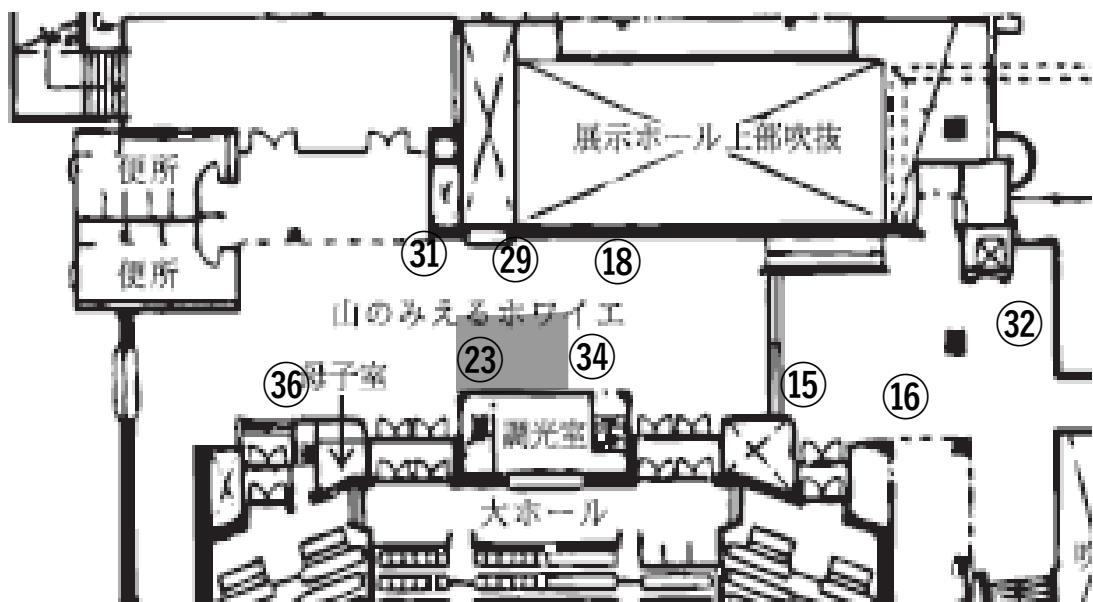
	発表者	内容	時間
1	奥平 さゆり		
	伊良皆 理奈	紙芝居の読み聞かせ（多良間島）	15:40-16:05
	島袋 梅子		
2	西川 陸人	絵本の読み聞かせ（多良間島）	16:05-16:30
3	茂手木 清	紙芝居（八丈島）	16:30-16:55
4	しうまむに伝承研究会	絵本読み聞かせ	16:55-17:20
5	ホーマムニ伝承会	スマムニ替え歌	17:20-17:45

*パフォーマンスは、準備、片付けを含めて1組当たり25分です。

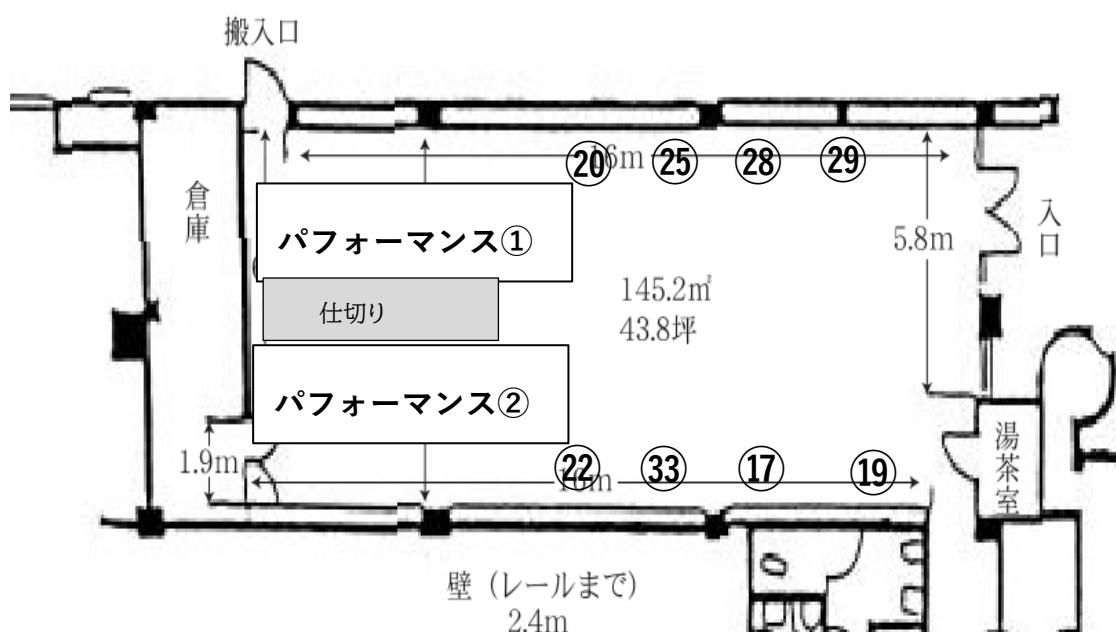
【大ホール 1階 ホワイエ】



【大ホール 2階 山のみえるホワイエ】



【展示ホール】

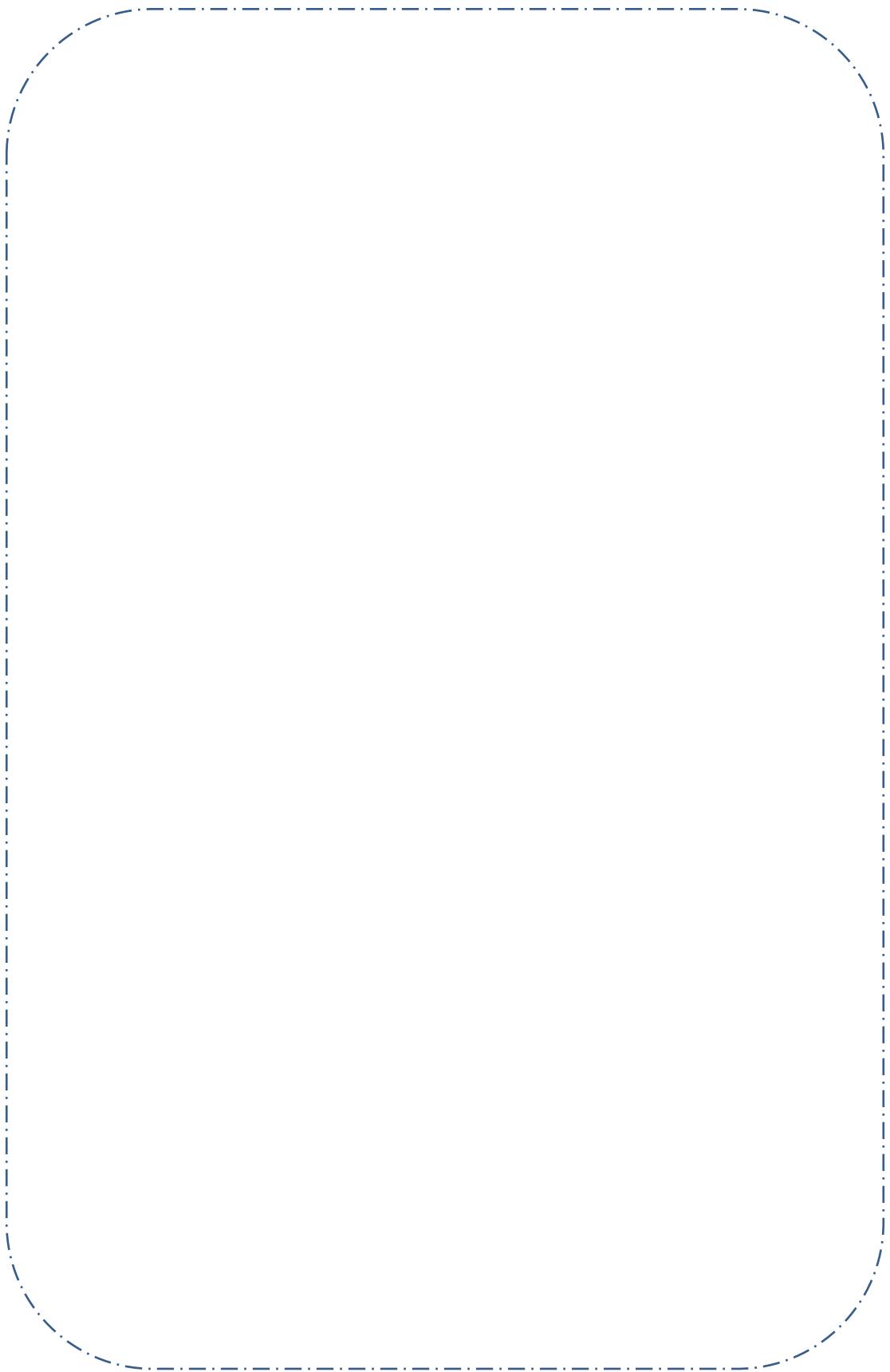


2日目

危機方言の現況報告

琉球大学客員研究員

石原 昌英



危機方言の現況報告

石原昌英

報告の内容

- ・県民意識調査の結果からみるしまくとぅばの現況
『沖縄県民意識調査』（琉球新報社）
『しまくとぅば県民意識調査』（沖縄県）
- ・しまくとぅば再生・復興に向けた取組と課題

しまくとうばの現況

「沖縄県民意識調査」（琉球新報社）

- 2001年から5年ごとに全県規模の調査を実施（回答者数は約1,000名）
- 政治・経済・文化を含め様々な領域に関する数多くの質問項目の中に「しまくとうば」についての質問を含む。「しまくとうば」の能動的言語能力（話せるか）についても質問している。
- 5年ごとの調査なので回答割合の増減で「経年変化」がわかる。

「しまくとうば」に関する能力
(琉球新報 (2022) 『2021沖縄県民意識調査』新聞紙上)

回答	合計	年代					
		20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
聞くことも、話すこと もできる	25.4%	5.0%	9.3%	9.4%	17.3%	39.8%	57.2%
聞けるが、話せない	23.0%	15.0%	17.3%	23.9%	28.6%	27.2%	21.1%
ある程度聞ける (聞い て分かる)	36.4%	55.0%	46.7%	49.7%	41.1%	23.0%	15.0%
全く聞けないし、話せ ない	13.4%	23.0%	26.0%	16.4%	11.9%	5.8%	5.0%
合計	98.2%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

過去15年間の変化 (琉球新報2002, 2007, 2012, 2017, 2022)

能力	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	年
聞くことも話 すこともでき る	55.8%	15.0%	26.2%	56.9%	71.8%	88.8%	88.6%	2001
	52.6%	7.9%	18.5%	34.4%	63.5%	82.8%	90.0%	2006
	44.7%	10.1%	13.7%	27.5%	51.8%	75.3%	86.8%	2011
	41.2%	7.5%	17.7%	24.9%	46.6%	71.3%	80.6%	2016
	25.4%	5.0%	9.3%	9.4%	17.3%	39.8%	57.2%	2021
聞くことも話 すこともでき ない	4.7%	10.2%	7.0%	6.5%	1.6%	0.0%	1.5%	2001
	5.8%	17.2%	13.1%	1.9%	1.6%	3.1%	1.0%	2006
	7.3%	20.8%	11.3%	4.9%	3.6%	3.7%	1.1%	2011
	10.3%	25.4%	14.4%	11.0%	4.5%	2.9%	3.5%	2016
	13.4%	23.0%	26.0%	16.4%	11.9%	5.8%	5.0%	2021

「沖縄県しまくとうば県民意識調査」沖縄県文化振興課

- ・2013年度から実施、2回目は2016年でそれ以降は毎年度実施されている全県規模のアンケート調査：回答者数は約1,000名
- ・「しまくとうば」に特化した言語意識・言語行動・言語能力に関する調査
- ・「しまくとうば」の理解度、使用頻度、使用相手等の質問項目はあるが、能動的しまくとうば能力（話せるか）に関する質問はない。
- ・毎年度実施されるので、年毎の経年変化がわかる。

『令和6年度 沖縄県しまくとうば県民意識調査』

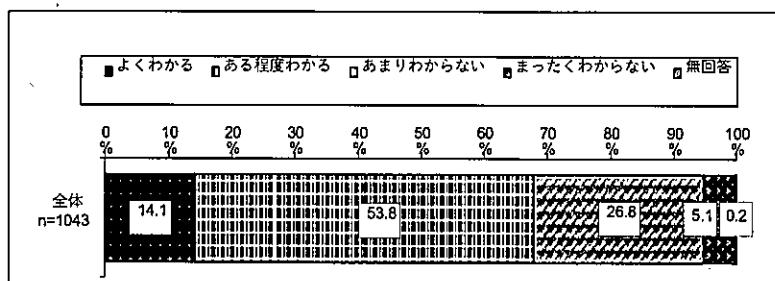
質問項目

- (1) 「しまくとうば」に対する親しみ； (2) 「しまくとうば」に対するイメージ； (3) 「しまくとうば」に対する理解度； (4) 「しまくとうば」に対する使用頻度； (5) 「しまくとうば」を使う相手； (6) ビジネスや公共の場での「しまくとうば」の使用に関する意識； (7) 普段の生活の中での「しまくとうば」の必要性； (8) 子どもたちが「しまくとうば」を使うようになることへの意識； (9) 学校の授業科目に「しまくとうば」を加えることについて、 (10) 家庭内での「しまくとうば」への取組状況； (11) 自身が住んでいる地域への愛着について； (12) 普及継承の取り組みについての認知度； (13) 「しまくとうば」の普及に必要なこと； (14) 自身の出身地の「しまくとうば」の認知度； (15) 自身の出身地の「しまくとうば」の継承を望むかについて

「しまくとうば」に対する理解度(報告書41ページ)

「しまくとうば」に対する理解度は「ある程度わかる」が53.8%で最も高く、次いで「あまりわからない」が26.8%、「よくわかる」が14.1%である。「わかる」（「よくわかる」+「ある程度わかる」を合わせる）が67.9%と半数以上がしまくとうばについて理解している。：年代別では、10代で「あまりわからない」が55.9%で最も高く、年代が上がるにつれ低くなっていく。：地域別では、宮古で「よくわかる」が36.7%と最も高い。

図表9 「しまくとうば」に対する理解度



「しまくとうば」に対する理解度：地域別(報告書9頁)

○最も高い→宮古

- ・よくわかる 36.7%
- ・ある程度わかる 40.0%
- ・合計 76.7%

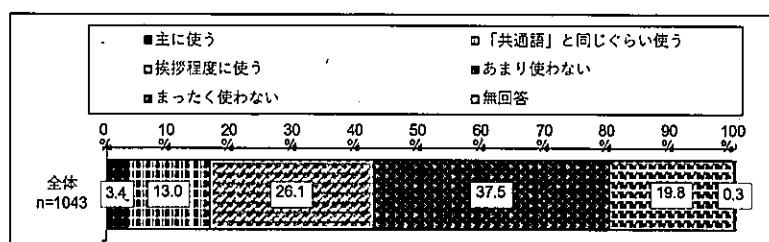
○最も低い→八重山

- ・よくわかる 12.9%
- ・ある程度わかる 50.0%
- ・合計 62.9%

「しまくとうば」の使用頻度（報告書42頁）

人と話すとき「しまくとうば」を使うかは、「あまり使わない」が37.5%で最も高く、次いで「挨拶程度に使う」が26.1%、「まったく使わない」が19.8%である。性別では、男性がしまくとうばを使う割合が（「主に使う」+「共通語と同じくらい使う」を合わせる）20.0%と女性の13.8%より6.2ポイント高い。

図表10 人と話すとき、「しまくとうば」を使うか？



「しまくとうば」の使用頻度：地域別（報告書11頁）

○最も高い→宮古

- ・しまくとうばを主に使う 20.0%
- ・共通語と同じくらい使う 23.3%
- ・挨拶程度に使う 16.7%
- ・合計 60.0%

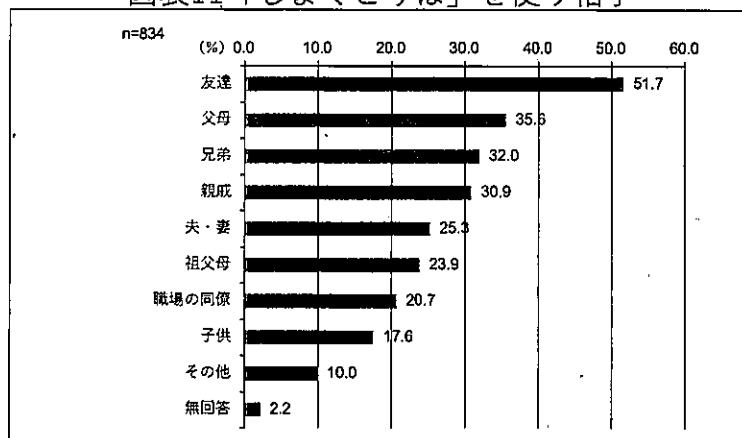
○最も低い→八重山

- ・しまくとうばを主に使う なし (-)
- ・共通語と同じくらい使う 8.1%
- ・挨拶程度に使う 29.0%
- ・合計 37.1%

「しまくとうば」を使う相手（報告書43ページ）

「しまくとうば」を使う相手（複数回答）：「しまくとうば」を使う相手は「友達」が 51.7%で最も高く、次いで「父母」が 35.6%、「兄弟」が 32.0%である。：性別では、男性の 61.7%が「友達」で、女性の 43.8%より 17.9 ポイント高い。：年代別では、20 代が「祖父母」に対して 67.2%と最も高く、次いで 10 代が 57.9%である。

図表11 「しまくとうば」を使う相手

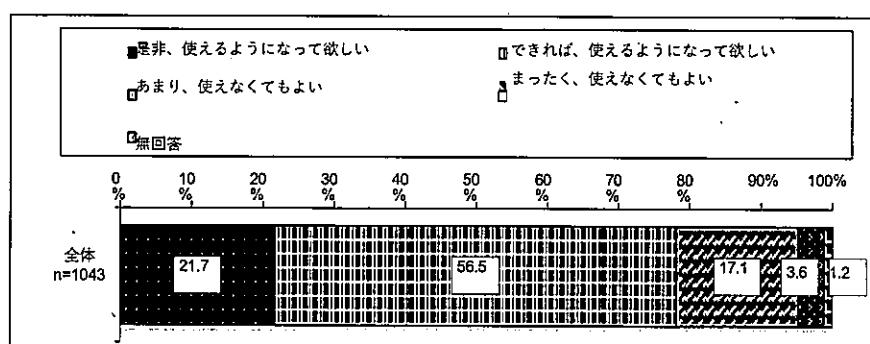


「しまくとうば」の継承：意識（報告書48頁）

問9、子ども達に「しまくとうば」を使えるようになって欲しいですか？

子供たちの「しまくとうば」の使用は「できれば、使えるようになって欲しい」が 56.5%で最も高く、次いで「是非、使えるようになって欲しい」が 21.7%、「あまり、使えなくてもよい」が 17.1%である。：性別では、男性の「是非、使えるようになって欲しい」が 23.9%で女性の 20.2%より 3.7 ポイント高い

図表16.子供たちの「しまくとうば」の使用



「しまくとうば」の継承：意識:地域別（報告書18頁）

○最も高い→八重山

- ・是非、使えるようになってほしい 24.2%
- ・できれば、使えるようになって欲しい 58.1%
- ・合計 82.3%

○最も低い→中部

- ・是非、使えるようになってほしい 4.0%
- ・できれば、使えるようになって欲しい 53.7%
- ・合計 57.7%

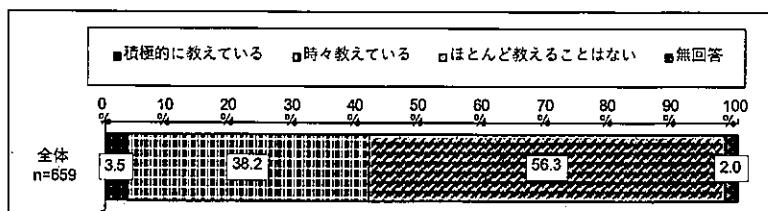
「しまくとうば」継承：行動（報告書50頁）

問11 家庭内で子どもに対して「しまくとうば」を教えるようにしていますか。

（子どもの有無で「いる」と回答）

家庭内で「しまくとうば」を教えるようにしているかは「ほとんど教えることはない」が56.3%で最も高く、次いで「時々教えている」が38.2%、「積極的に教えている」が3.5%である。：地域別では、教えている（「積極的に教えている」+「時々教えている」を合わせると）が宮古で47.6%と最も高い。

図表18 家庭内で「しまくとうば」を教えるようにしているか



「しまくとうば」継承：行動:地域別（報告書22頁）

○最も高い→その他の離島

- ・積極的に教えている 4.5%
- ・時々教えている 45.5%
- ・合計 50.0%

○最も低い→八重山

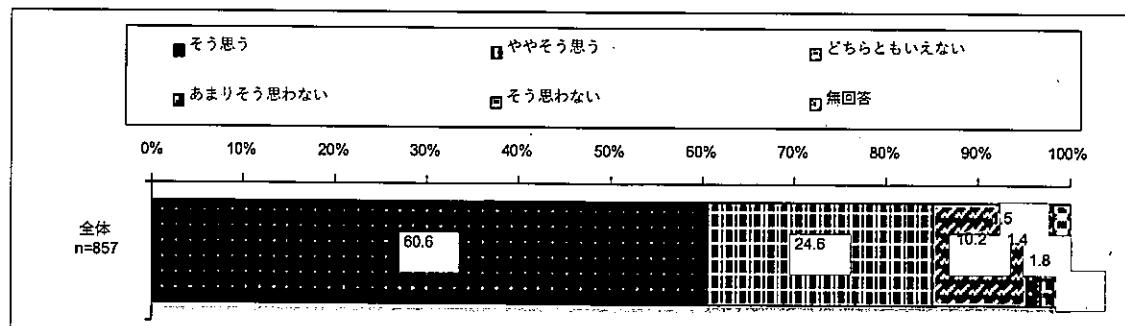
- ・積極的に教えている 2.4%
- ・時々教えている 26.2%
- ・合計 28.6%

地域の「しまくとうば」の継承：意識（報告書54頁）

問14. ご自身の出身地の「しまくとうば」が将来に渡って残ってほしいと思いますか。
(出身地で「沖縄県内」と回答)

「しまくとうば」の継承は「そう思う」が 60.6%で最も高く、次いで「ややそう思う」が 24.6%である。残って欲しいと思う（「そう思う」+「ややそう思う」を合わせる）は 85.2%と継承することを望んでいる。：地域別では、八重山で「そう思う」が 71.4%で最も高く、「ややそう思う」と合わせると 88.1%となる。

図表22. 「しまくとうば」の継承



地域の「しまくとうば」の継承：意識：地域別（報告書31頁）

○最も高い→八重山

- ・そう思う 71.4%
- ・ややそう思う 16.7%
- ・合計 88.1%

○最も低い→その他の離島

- ・そう思う 48.9%
- ・ややそう思う 31.9%
- ・合計 80.8%

沖縄県の「しまくとうば」は 消滅の危機に瀕している

- ・「しまくとうば」を話せる者は、日常会話でそのことばをあまり（ほとんど）使わない。→日本語が「生活言語」である。
- ・若い世代は継承言語としての「しまくとうば」を第一言語（母語）としても第二言語としても習得していない。→日本語が母語となり、しまくとうばの世代間継承が断絶している。
- ・沖縄県の子ども達は、父母・祖父母が彼・彼女達との会話に「しまくとうば」を使わない／使えないでの、継承言語である「しまくとうば」を聞いたり話したりする機会がない。
- ・言語意識と言語行動にギャップがある。子ども達が「しまくとうば」を継承して欲しいと望んでいるが、そのための行動をしていない。

「しまくとうば」の再生・復興に向けた取組

沖縄県文化振興課・しまくとうば普及推進室

- ・しまくとうばの日に関する条例（平成18年沖縄県条例第35号）第1条に規定するしまくとうばの保存、普及及び継承に關すること。
- ・「しまくとうば」に関する資料の公開（インターネット）

<https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/kankotokusan/1011671/1011741/1011777/1011776.html>

しまくとうば普及センター

- ・しまくとうば人材バンク

しまくとうば講師の養成と派遣：沖縄島中南部地区、北部地区、宮古諸島地区、八重山諸島地区で講師養成講座を実施

- ・しまくとうばアーカイブ「シマジマのしまくとうば」

<https://ryukyuanlanguages.org/>

令和7年度しまくとうばに関する取組にかかる学校への支援一覧（しまくとうば普及推進室のデータを基に作成）

学校名	内容	対象	回数・時間	スケジュール
A小	クラブ活動	4年生～6年生	6回	4/23、5/14、5/21、5/28、6/18 (すべて水曜日) 14:35～15:35
B小	クラブ活動	4年生～6年生	6回	5/12、5/26、6/2、6/9、6/16、 6/30 (すべて月曜日) 14:35～15:35
C小	総合学習	4年生	2時間	10月17日(金)午前中
D小	総合学習	4年生	2時間	7月1日
E中	国語	1年生	1時間	11月or12月
F高	国語（学校設定科目）	2年生（月曜日） 3年生（金曜日）	5回	6月～11月 月曜日(5, 6校時)と金曜日 (1, 2校時)
G高	教養講座	3年生	3時間	令和8年1月～2月
H特支	音楽	小学部6年生 中学部	2時間	9月9日

「しまくとうば」の再生・復興に向けた取組（一部のみ）

『大琉球語辞典』（琉球大学）

<https://ryukyu-lang.lab.u-ryukyu.ac.jp/>

『日本の消滅危機言語彙データベース』（国立国語研究所）

<https://kikigengo.ninjal.ac.jp/data/tango/search>

しまくとうばナビ

<https://shimakutuba.jp/>

言語復興の港（代表：国立国語研究所准教授・山田真寛）

<https://plrminato.wixsite.com/webminato>

「しまくとうば」の再生・復興に向けた取組（一部のみ）

・沖縄ハンズオンNPO

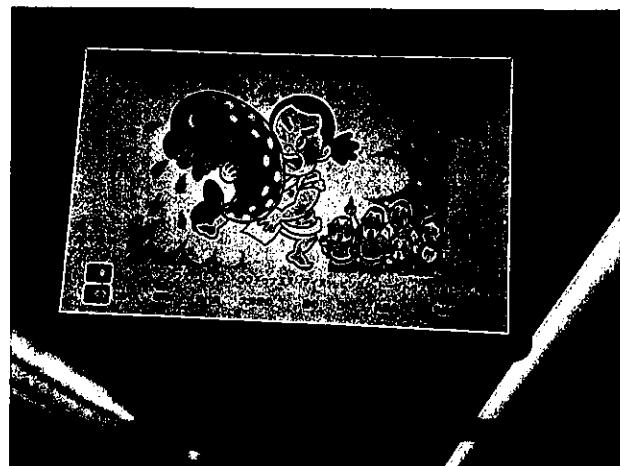
ユース俱楽部（<https://www.h-on.org/>）

・一般社団法人マッタラー 学童クラブ

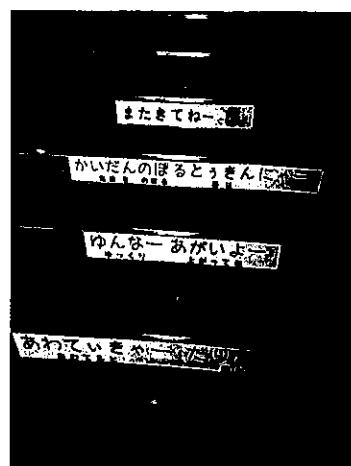
アカンミキッズクラブ、ハゲーラキッズクラブ

「しまくとうば」の再生・復興に向けた取組（一部のみ）

JTAの機内

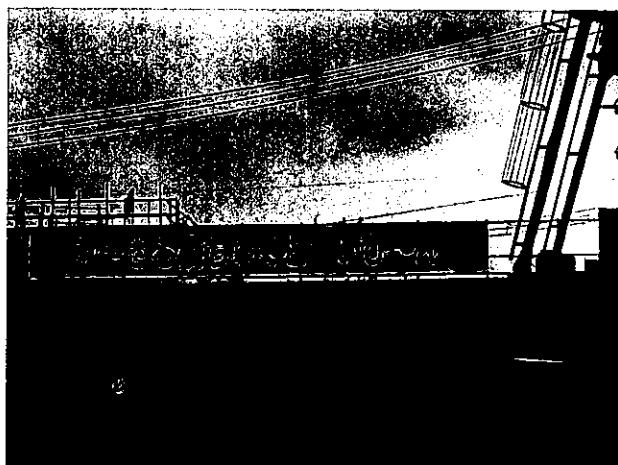


宮古島市の観光施設



「しまくとうば」の再生・復興に向けた取組 言語景観（一部のみ）

道路工事現場



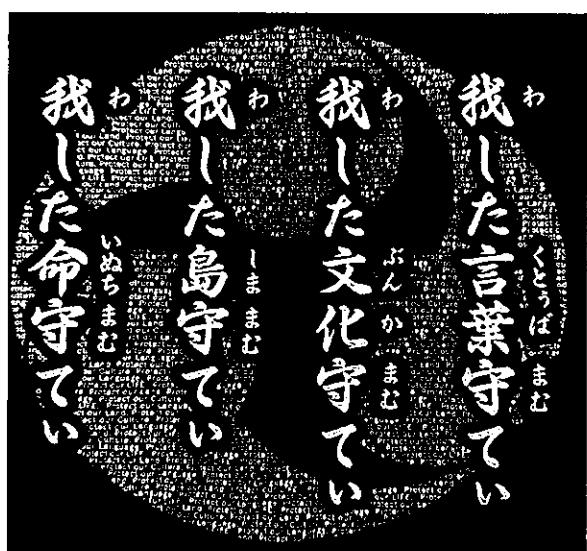
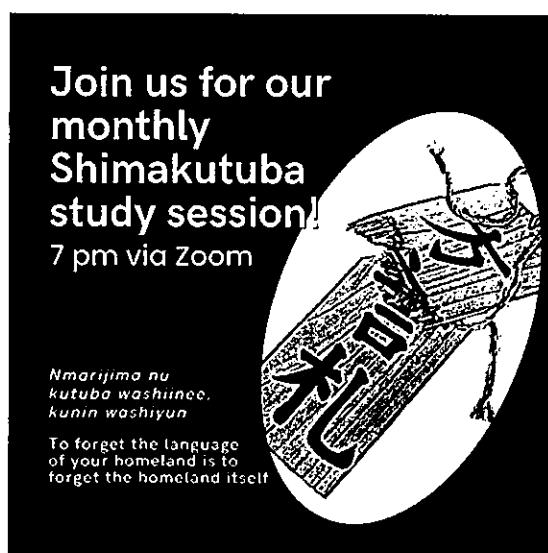
読谷村の座喜味城跡



「しまくとうば」の再生・復興に向けた取組
県産食品の名称（一部のみ）

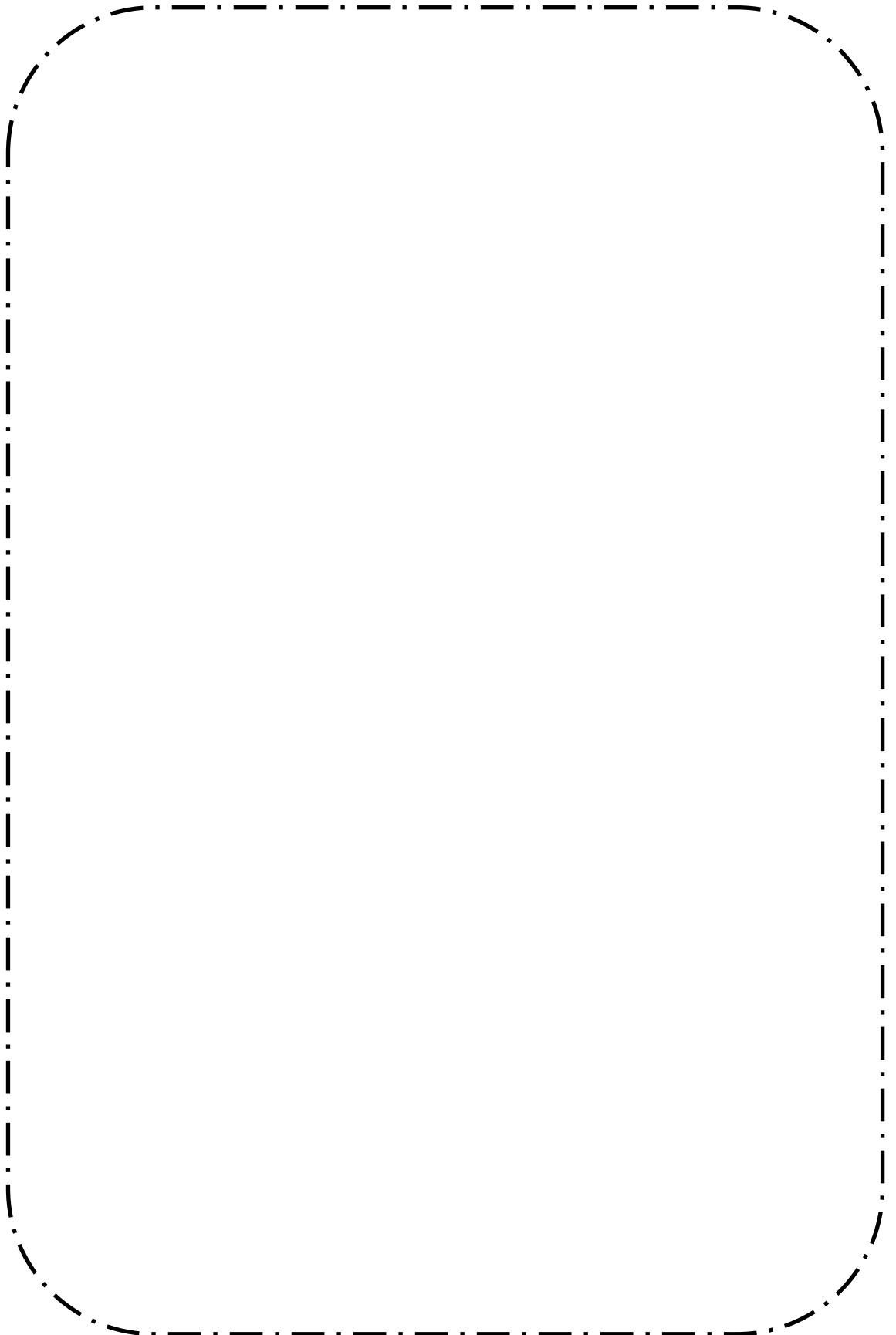


まとめ



参考文献

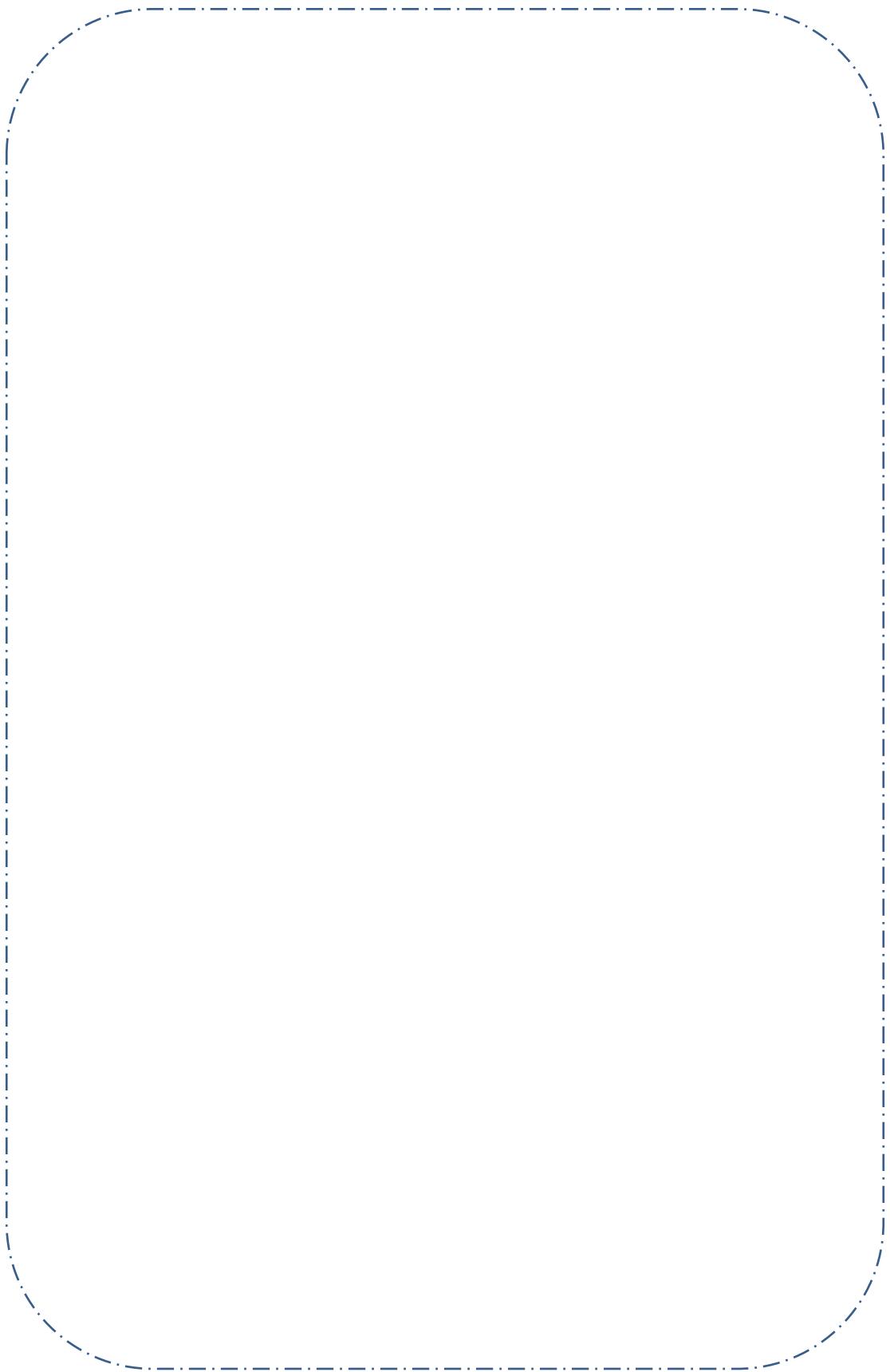
- 沖縄県（2025）『沖縄県しまくとぅば県民意識調査報告書』。
- 琉球新報社（2002）『2001 沖縄県民意識調査報告書』。
- 琉球新報社（2007）『2006 沖縄県民意識調査報告書』。
- 琉球新報社（2012）『2011 沖縄県民意識調査報告書』。
- 琉球新報社（2017）『2016 沖縄県民意識調査報告書』。
- 琉球新報社（2022）『2021 沖縄県民意識調査報告書』（新聞のみ）。



2日目

八重山地方における 取組報告

前石垣市教育委員
金城 綾子

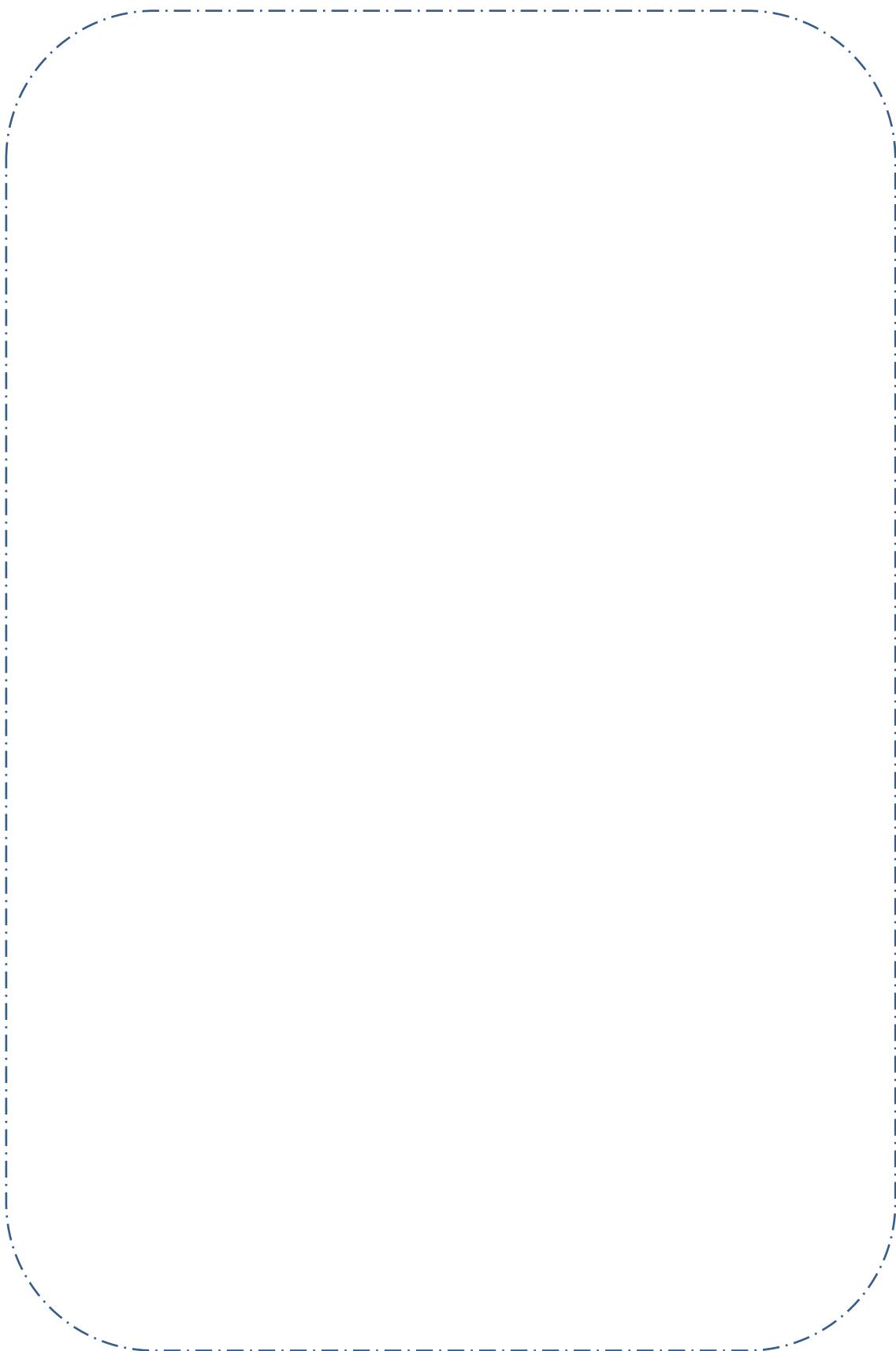


2日目

アイヌ語の現況報告

国立アイヌ民族博物館研究員

深澤 美香



アイヌ語の現況報告

深澤美香
(国立アイヌ民族博物館 研究員)

本報告では、アイヌ語の現況として主に、ウポポイおよび国立アイヌ民族博物館で行われているアイヌ語の取り組みについて紹介します。本内容は、発表者が『ウポポイのことばと歴史』のなかの「国立アイヌ民族博物館のアイヌ語による展示解説文と『私たち』」に書いた内容が中心になっています¹。

1. アイヌ語と発表者の立場

1.1. アイヌ語とは

アイヌ語は、「日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族であるアイヌの人々」が話してきた言語で、日本語とは方言の関係にありません。この、「日本列島北部周辺、とりわけ北海道…」というのは法律²に書かれている言葉です。具体的には、北海道、本州の東北地方、樺太の南部、千島列島に広がる地域のことを指します。共通語(いわゆる「標準語」)は定められておらず、北海道、樺太、千島列島北部で方言的に大きな違いが見られます。日本の東北地方にはアイヌ語由来の地名が残っていますが、それ以上の詳しいことはわかっていません。また、方言差があると言っても、どの地域でも同じかあるいは似たような言葉を使う(わずかに音の違いがあるだけ)ということも多く見られます。

アイヌ民族は、樺太や千島列島では、日本とロシアとの国境の問題でさまざまに振り回され、北海道では、明治以降の同化政策によってアイヌ語だけで生活をすることが困難になるなど、つらい境遇に立たされてきた歴史があります。そんななか2009年には、ユネスコによってアイヌ語が「消滅の危機にある言語」に指定され、危機の度合いが「極めて深刻」と位置付けられました³。しかし、アイヌ語は危機的な状況にある言語のなかでも、音声や文献、映像資料が豊富にある言語です。この背景には、日本語での生活を強いられてきた世代が、「未来にアイヌ語を残したい」という思いで、自らノートやテープに記録したり、アイヌ語教室やラジオ放送の講師になったり、研究者の調査に協力したりしてきたからだと言えます。

1.2. 発表者の立場

発表者(深澤)は、北海道で生まれ育ちました。高祖父・曾祖父の代に本州から渡ってきたいわゆる「道産子」で、和人のアイデンティティを持っています。大学時代にアイヌ語に出会い、そこで初めて、自分がアイヌ語を全く知らないことに気づきました。そこから大学院に進学して、アイヌ語を本格的に学び始め、現在は言語学者という立場で、主にアイヌ語の方言や歴史的研究を行っています。2017年より国立アイヌ民族博物館設立準備室に勤務し、2020年にウポポイ(民族共生象徴空間)がオープンしてからは国立アイヌ民族博物館で研究員として勤務しています。

本報告では、言語学を専門とする国立アイヌ民族博物館の職員として関わってきた、アイヌ語の取り組みの今について紹介します。

2. ウポポイ(民族共生象徴空間)とは

2020年に北海道白老町にオープンした民族共生象徴空間 ウポポイは、アイヌ文化の復興・創造等のナショナルセンターです。国立民族共生公園、国立アイヌ民族博物館、慰靈施設を主要施設とし、アイヌ政策の「扇の要」として整備されました。基本構想(改訂版)⁴⁾にはこのようにあります。

単にアイヌ文化を振興するための空間や施設を整備するというものではなく、我が国の貴重な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化を復興・発展させる拠点として、また、我が国が将来へ向けて、先住民族の尊厳を尊重し差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴という、重要な意義を有する国家的なプロジェクトとして、長期的視点に立って取り組むべき政策である。

(アイヌ総合政策推進会議 2016：太字は発表者)

ウポポイというのは、「(おおぜいで)歌うこと」を意味するアイヌ語の愛称です。ウポポイではアイヌ語を「第一言語」、つまり最も優先されるべき言語であると位置づけ、園内の各種表示がアイヌ語で書かれています。さらに、国立アイヌ民族博物館の主要な展示解説文はアイヌ語で表示され、そのあとに日本語、英語、中国語(簡体字)、韓国語が続きます。このような表示方法は、アイヌ語が第一言語であるという姿勢を象徴するひとつの取り組みです。

発表者が2017年に国立アイヌ民族博物館設立準備室に着任した際、最初の大仕事となつたのが、アイヌ語研究者や有識者で構成される「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会」(以下、委員会)の立ち上げでした。過去には、北海道ウタリ協会(現在の北海道アイヌ協会)が『アコロ イタク』⁵⁾という教科書を編集したときに、アイヌ語の方言や表記に関する検討の場が設けられたことがありました。『アコロ イタク』では最終的に方言は一つに決めずいくつかの方言を併記する形になりました。また、『アコロ イタク』に定められた表記法は、一部批判的な意見もありますが、現在のアイヌ語カタカナ表記で最も使われている表記法と言っても過言ではありません。

委員会の立ち上げの際には、研究者やアイヌ協会の方などに委員会に協力してもらえないかと説明をしてまわりました。趣旨に賛同できないとお断りされることもありましたが、「ようやくこの時代が来ましたか…」と感慨深げにお引き受けいただいたこともあります。この委員会での決定は、アイヌ語の将来に対して良くも悪くも大きな影響をもたらすことになるかもしれない — それぞれの持ち場で長く闘ってこられた方々を前に、改めて身が引き締まる思いだったことを覚えています。

委員会では、各地のアイヌ語学習者に集まってもらって意見交換を行うことから始めました。取り急ぎの課題は、アイヌ語の表記、新語、方言、これらの3項目について当館そしてウポポイがどう対応していくのかということでした。

3. 表記・新語・方言を検討する

3.1. 表記について

アイヌ語の表記については、現在、カタカナとローマ字のどちらか一方、あるいは両方で書かれることが多いです。少し蛇足になりますが、博物館で働いていると、「アイヌ語は文字がなかったんでしょう？」と言われることがあります。疑問文の形式とっていますが、質問者にとっては既知の事実に対する確認です。では、質問者が欲している真の答えは何なのでしょうか。日本語よりもアイヌ語が劣勢の言語であるという考え方や、非文字文化への異質視が質問の背景になっていないでしょうか⁶。

日本語が文字を獲得してからの歴史は、アイヌ語よりもずっと長いことは否定しません。このような質問があった場合、「文字はありませんでした。日本語も元々は文字がなかった言語です。日本語が漢字を借りて平仮名やカタカナをつくったように、アイヌ語もカタカナを借りて新たに小書きのカタカナをつくるなどして工夫して表記しています。アイヌ民族自身が文字を使ってアイヌ語を表すようになってから既に百年程の歴史があります」というように、できる限り日本語についても意識を向けるように回答することを心がけています⁷。

日本語には、「常用漢字表」「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」「外来語の表記」「ローマ字のつづり方」がそれぞれ内閣告示、内閣訓令となり、一般の社会生活における国語表記の目安・よりどころとされています⁸。一方、アイヌ語だけでなく、日本語の方言を表記する際は、国の政策とした検討の場合は設けられていないので、個別のルールに従って書かれるというのが前提となります。現在、アイヌ語は音のしくみをより正確に表すために、小書きのカタカナを使ったり、ヘボン式や訓令式とは異なるローマ字表記を使ったりと、さまざまな工夫をしながら表記されています。

本題に戻りますが、委員会では文字の選択と表記法が議題になりました。文字の選択では、スペースのあるところにはカタカナとローマ字を併記し、それ以外ではカタカナを優先しました。また、カタカナとローマ字の表記法は、前述の『アコロ イタク』に合わせる、もしくは執筆者の書きたいように表記することにしました。国立の施設がアイヌ語の統一的な表記や方言を使用するということは、意図せずとも「表記の目安・よりどころ」とされてしまう可能性があるからです。アイヌ語を受け継ぐ人たちの選択肢を狭めることなく未来につなげていくための決定をしたと思っています。

3.2. 新語

ここで「新語」と呼ぶものは、簡単に言うと、2017年当時にアイヌ語の辞典やアーカイブで簡単に拾うことができなかった言葉のことです。明治以降に日本語での生活を余儀なくされてから、アイヌ民族による記録にも日本語を借用したものが多く見られるようになります。現在、日本国内でアイヌ語だけで生活できる環境は存在せず、それと関連するように、新たな表現が生み出される環境も決して多いとは言えません。「国立アイヌ民族博物館」の「国立」や「博物

館」、そして「展示室」などさまざまな表現については、新たにどのように表現するかを考えていく必要がありました。

委員会では、2018年に「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議」(以下、WG会議)を設置し、アイヌ語の新語等を検討するための下部組織を設けました。WG会議はオンライン掲示板でさまざまなアイデアを募集し、それらのアイデアに対して文法的な間違いなどはないかなどをチェックするのが主な役割です。それでも、「国立アイヌ民族博物館」のアイヌ語名称などは、看板やパンフレットなどあらゆる場所に使われるため、最終的に一つに決める必要があります。一つに決めるのは、看板などの表示であればウポポイの職員が、解説文であればその執筆者が行うことにしました。

また、WG会議で承認されたいいくつかの新語案は、アイヌ語新語辞典のなかで表現の選択肢として掲載しようという将来的な目標も生まれました。このように選択肢を残しながら新語を増やしていくというのは、ハワイ語復興の取り組み事例を参考にしています。まだ目標は達成されていませんが、ウポポイで使われている表示のみを集めた辞典は、2025年3月に博物館の調査研究プロジェクトの報告書として刊行されました。ウェブサイトからも無料でダウンロードできるようになっています⁹。

近年、新語についてはもう一つ大きな流れがありました。2022年にアイヌ語研究者であり話者であった太田満氏の遺稿として、膨大な新語案が含まれた『和愛辞典：草稿版』が刊行されたことです¹⁰。太田氏の言語能力と言語センスは素晴らしい、この辞典が刊行される以前からアイヌ語復興やアイヌ語教育に影響を与えた方です。この辞典の序文にもあるとおり、太田氏が考案した「電子メール(Eメール)」を表すアイヌ語、「イメールカンピ」(イメール:稻妻・雷光、カンピ:紙・手紙)は、現代で既に定着しつつある新語だと思います。使いやすくわかりやすい言葉が使われ、定着したという事例の一つです。

3.3. 方言

委員会で各地のアイヌ語学習者に集まってもらって意見交換をした際、最も議論が白熱したのは方言の問題だったと記憶しています。展示解説文や表示等に使用するアイヌ語の方言を一つに絞るかどうかが議論の焦点でした。

一つに絞った場合、統一感があってわかりやすいというメリットがある一方で、他方言を排除することになります。アイヌ語の方言は各地のアイヌ民族のアイデンティティと結びついています。アイヌ語の学習者や継承者は、これまで学んできた方言や、自らの出身地に近い方言をとても大切に思っていました。そして、ウポポイは「国立」の施設です。最終的にたどり着いた結論は、アイヌ語の多様性をそのまま伝えることでした。よって、表示であればその新語案を出した人が希望する方言、解説文であれば執筆者が希望する方言を使用することになりました。

この結論は、今となっては「どこに迷うポイントがあったのだろう?」と思えるほど、ウポポイの内外ともに自然に受け入れられています。ウポポイが開業して5周年が経った今も、特に困ってはいません。体感としては、「アイヌ語には方言差がある」ということを職員が常に意識す

るようになったと思います。そのため、広報媒体などでアイヌ語を使うときには「どの方言を使うか」ということが議題に上がり、その度に根拠をもって方言の選択をしています。

一つに絞って、仮に“ウポポイ共通語”的なものをつくっていたとしたら、どのような今を迎えていたでしょうか。よりさまざまな問題がシンプルになっていたかというと、それも当たらない気がしています。例えば、ウポポイでは各地のアイヌ文化を紹介する際に、それぞれの地域に伝わる方言を使って紹介しています。もし“ウポポイ共通語”が勢力をふるうなか各地のアイヌ文化を紹介する場合、やはり同じように「どちらの方言を使うか」という議論が生まれていたことでしょう。しかし、それは方言と共通語の対立関係の問題であって、現状の「方言の多様性を大事にする」という考え方とはかなり違うものです。

国立の施設が示す姿勢として、地域のアイヌ文化やアイヌ語の多様性を尊重するという合理的な選択と決定ができたのは、さまざまな立場の人たちと真剣に意見を交わし合ったお陰だと思っています。

4. 展示解説文のなかの「私たち」

当館の展示解説文の大きな特徴は、語りの主体として「私たち」という表現が使用されていました。当館の基本展示(常設展示)が「私たちのことば／世界／暮らし／歴史／しごと／交流」というアイヌ民族の視点で語る6つのテーマ構成とすることは、2015年の基本計画の段階から決まっていたことです¹¹。この「私たち」とは、当然ながら「アイヌ民族」のことです。和人である職員が「私たち」という一人称で語ることはやはり違うでしょう。

通常、博物館の常設の展示解説文というのは館内職員によって執筆されますが、当館の場合は、研究員や学芸員のルーツの問題、さらに第一言語のアイヌ語運用能力の問題がありました。こうした状況のなかアイヌ語による展示解説文を作成するためには、職員に限らず、館外の方々の協力を得て進めていく必要がありました。

アイヌ語による展示解説文の執筆者は一〇代から七〇代の16名で、アイヌ語の学習歴や学習方言も様々でした。これまで各地でフィールドワークをしてきたアイヌ語の研究者や有識者とペアを組み、二人三脚で進めてもらうことを基本としました。

展示解説文の本文は、アイヌ語が出来上がったあとに日本語を書き直していくという方法をとりました。しかし、展示解説文のタイトルは端的にわかりやすく、また言葉の響きの美しさも求められるということで、別の難しさがあったように思います。今回はタイトルについて取り上げます。

日本語タイトル	アイヌ語タイトル	アイヌ語直訳
1. 物語と文学	アコロ オルシペ	私たちがもつ(私たちの)物語
2. 現在に続く、私たちの歩み	チコロ ウパシクマ	私たちがもつ(私たちの)言い伝え
3. 先祖のしごと	シンリツ モニキ	先祖のしごと

アイヌ語は日本語と異なり、「私たち」を表す際には動詞に付く人称接辞というもので表します。他動詞の主語を表す場合は動詞の前に、自動詞の主語を表す場合は動詞の後に付きます。また、「私たち」にも2種類の言い方があります。「聞き手を含む私たち」(1人称包括形)と、「聞き手を含まない私たち」(1人称除外形)です。ここでは、1番の「ア」が前者で、2番の「チ」が後者にあたります¹²。

また、1番の「ア」は不定人称と呼ばれる用法も持っていて、「私たちの物語」だけではなく「人の物語」という意味にもなります。どちらの意味で執筆者が「ア」を使っているかは、文脈によって判断されますが、基本的にここではアイヌ民族のことを指して言っています。2番の「チ」は「聞き手を含まない私たち」ですが、仮に展示解説文を読んだ方にアイヌ民族がいたとしても、その方を除外するわけではないという意図のもと使われています。人称接辞をつけない3番のようなタイトルは、三人称を用いて書かれたものです。「アイヌ民族の先祖のしごと」ということになります。その他のタイトルも見てみましょう。

日本語タイトル	アイヌ語タイトル／アイヌ語直訳
4. カムイとのかかわり	カムイ トウラ オカヤン(オカイアン) ／カムイとともに私たちがくらす
5. 伝統を魅せる	チコロ ブリ チヌカレ ／私たちがもつ(私たちの)風習を私たちが見せる

4番は「聞き手を含む私たち」、5番は「聞き手を含まない私たち」です。1～3番が名詞句のタイトルだったのに対して、4、5番は文の形式をとっています。このように、アイヌ語のタイトルは日本語の直訳ではなく、アイヌ語の文法に沿って自然なタイトルになるように調整されます。この根底にあるのは、「日本語から訳すのではなく、アイヌ語でどのように表現するのが適切かを考える」ということです。アイヌ語と日本語には、語彙に含まれる意味や用法、そして言語がもつ視点の違いがあります。日本語とアイヌ語のタイトルがかなり違うように見えても、それは同じ物事を別の視点、別の角度から表現したものだということを述べておきたいと思います。

5. アイヌ語の広がりのなかで「私たち」を考える

ここ10年ほどで、商品名や店名などにアイヌ語が使われているのを見かけることが増えました。ひとつには当館のアイヌ語アーカイブ¹³のように、誰でも簡単に無料で検索できるツールが普及したこと。そして、アイヌ語やアイヌ文化を扱った漫画が人気を得たこと、ウポポイの開園など、さまざまな要素からアイヌ語に注目する人が増えてきたようです。こうした流れのなか、アイヌ語の意味や文法、表記法に間違いを含んだ状態で名づけられてしまうケースもよく見られます。

ウポポイも例外ではなく、誤った用法あるいは不適切な用法でアイヌ語が発信されそうになり、途中で気づいて食い止めたなどということもあります。職員の多くは運営主体である公益

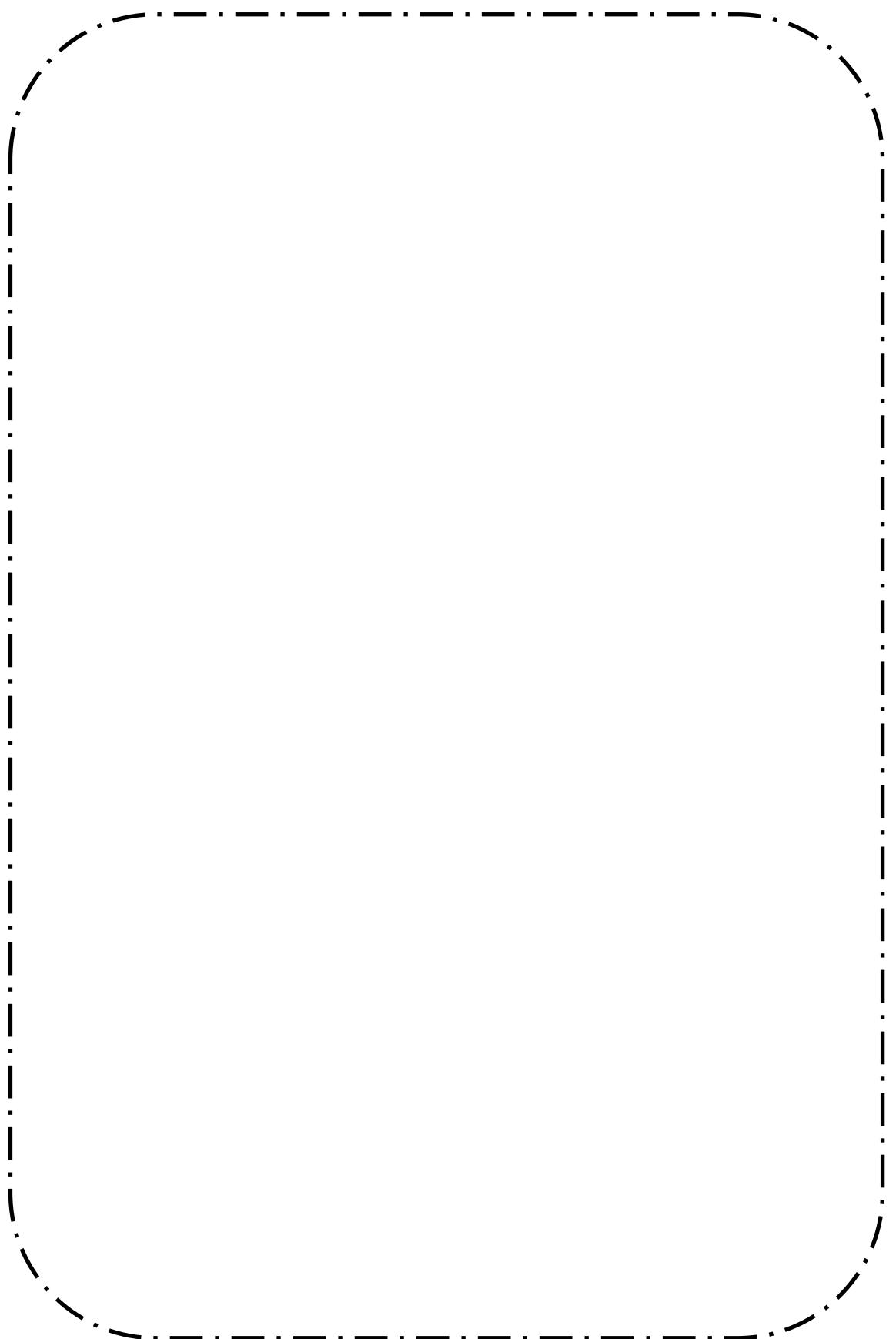
財団法人アイヌ民族文化財団に所属していますが、国や道から派遣されてくる職員も多く、毎年あらゆる部署で人材の入れ替わりが起こります。さらに、ウポポイのなかにアイヌ語という冠がついた部署はありません。アイヌ語を第一言語にするという挑戦は、職員の意志と勉強量にかかっている状況です。

そんななか、2022年に、アイヌ語の様々な仕事を解決するための非恒久的な組織として、「ウポポイ アイヌ語タスクフォース」を立ち上げました。様々な部署でアイヌ語を学んでいる職員同士を繋ぎ、横の連携がとれる体制になっています。基本的には、ウポポイのなかで使われるアイヌ語のチェックや検討をしていますが、内部発信のSNSやチラシ・パンフレット等の広報媒体だけでなく、ウポポイに取材が入った外部発信のテレビ番組、ラジオ番組などのチェックなども含まれます。アイヌ語をチェックする際には、アイヌ民族が「他者」になっていないかという倫理的なチェックを伴うこともあります。

ウポポイの職員には、アイヌ民族、和人、その他さまざまなルーツをもった人がいますが、数で言えば和人が多いです。主語が誰なのか、「私たち」には誰が含まれるのか、日本語やアイヌ語のなかで特に誰かを指定しないときの「私たち」とは誰のことなのか。これは、いま発表者である私がウポポイで働いているからこそ、深く考え、意識できるようになったことだと思います。国内のその他の危機的な状況にあることばの復興に、とくに私のように当事者ではなく外から支える人たちと、そういった人たちとの協働を進めている当事者のみなさんにとって、何か少しでも心に残るものがあれば幸いです。

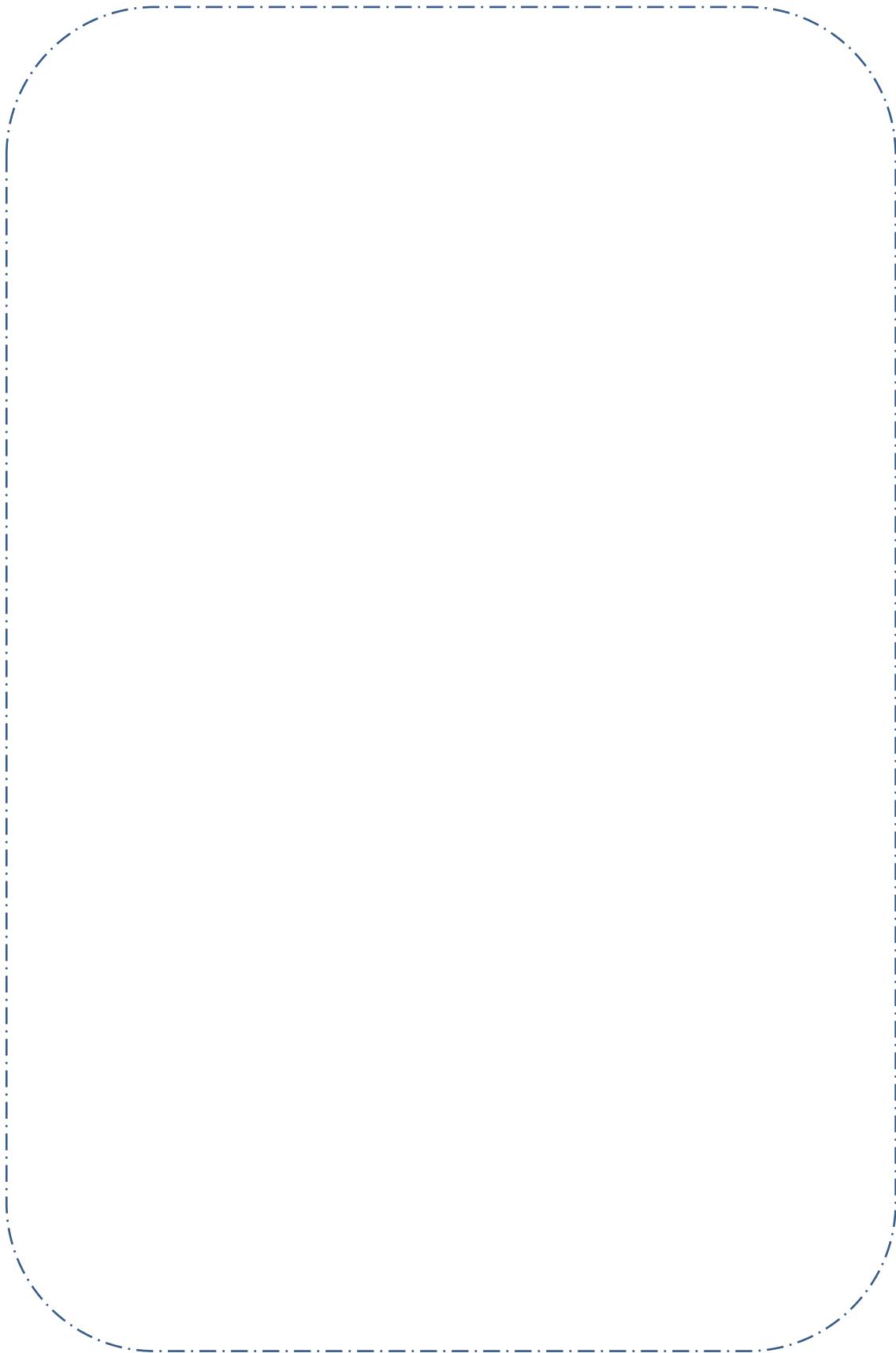
参考文献：

- 1 国立アイヌ民族博物館編『ウアイヌコロ コタン アカラ ウポポイのことばと歴史』国書刊行会、2023年。
- 2 「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」(平成三十一年法律第十六号) <https://laws.e-gov.go.jp/law/431AC0000000016> (閲覧日 2025年9月30日)
- 3 文化庁ウェブサイト「消滅の危機にある言語・方言」
https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/index.html (閲覧日 2025年9月30日)
- 4 アイヌ総合政策推進会議『「民族共生象徴空間」基本構想』(改定版)、2016年。
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/pdf/kousou20160726.pdf> (閲覧日 2025年9月30日)
- 5 北海道ウタリ協会編『アコロ イタク AKOR ITAK アイヌ語テキスト!』クルーズ、1994年。
- 6 北原モコットウナシ「高等教育機関におけるアイヌ民族へのマイクロアグレッショն」『アイヌ・先住民研究』3号、3-33頁、2023年。
- 7 知里幸恵(1903-1922年)がアイヌ語をローマ字で記述した例など。『知里幸恵ノート』北海道立図書館蔵。<https://www3.library.pref.hokkaido.jp/digitallibrary/content01/213-2021-03-11-02-45-15.html> (閲覧日 2025年9月30日)
- 8 文化庁「国語施策・日本語教育：内閣告示・内閣訓令」(閲覧日 2025年9月30日)
https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/index.html
- 9 小林美紀(編)『ウポポイのアイヌ語表示辞典』国立アイヌ民族博物館、2025年。
- 10 太田満『和愛辞典：草稿版』北海道大学アイヌ・先住民研究センター、2022年。
- 11 文化庁『国立のアイヌ文化博物館(仮称)基本計画』、2015年。
- 12 方言によっては「ア」は「アン」になることがあります。
- 13 「国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ」<https://ainugo.nam.go.jp/> (閲覧日 2025年9月30日)



2日目

危機言語・方言による 表現披露 2



<南部方言 昔口語り>

柾谷 伸夫

<アイヌ語 弁論・歌謡・舞踊>

楠本 スクシ

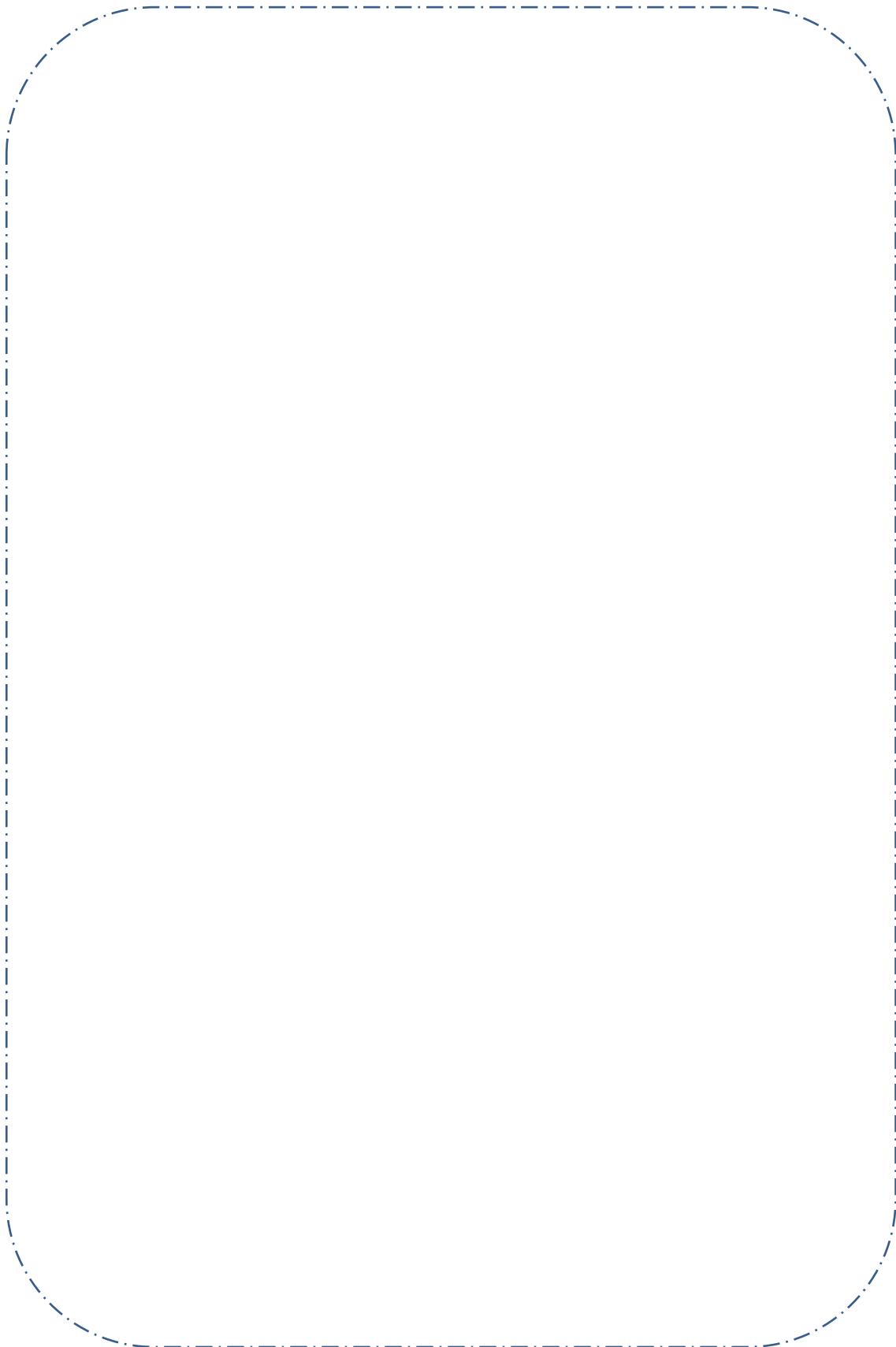
北原 モコットウナシ

豊川 容子

川上 亜万夢

2日目

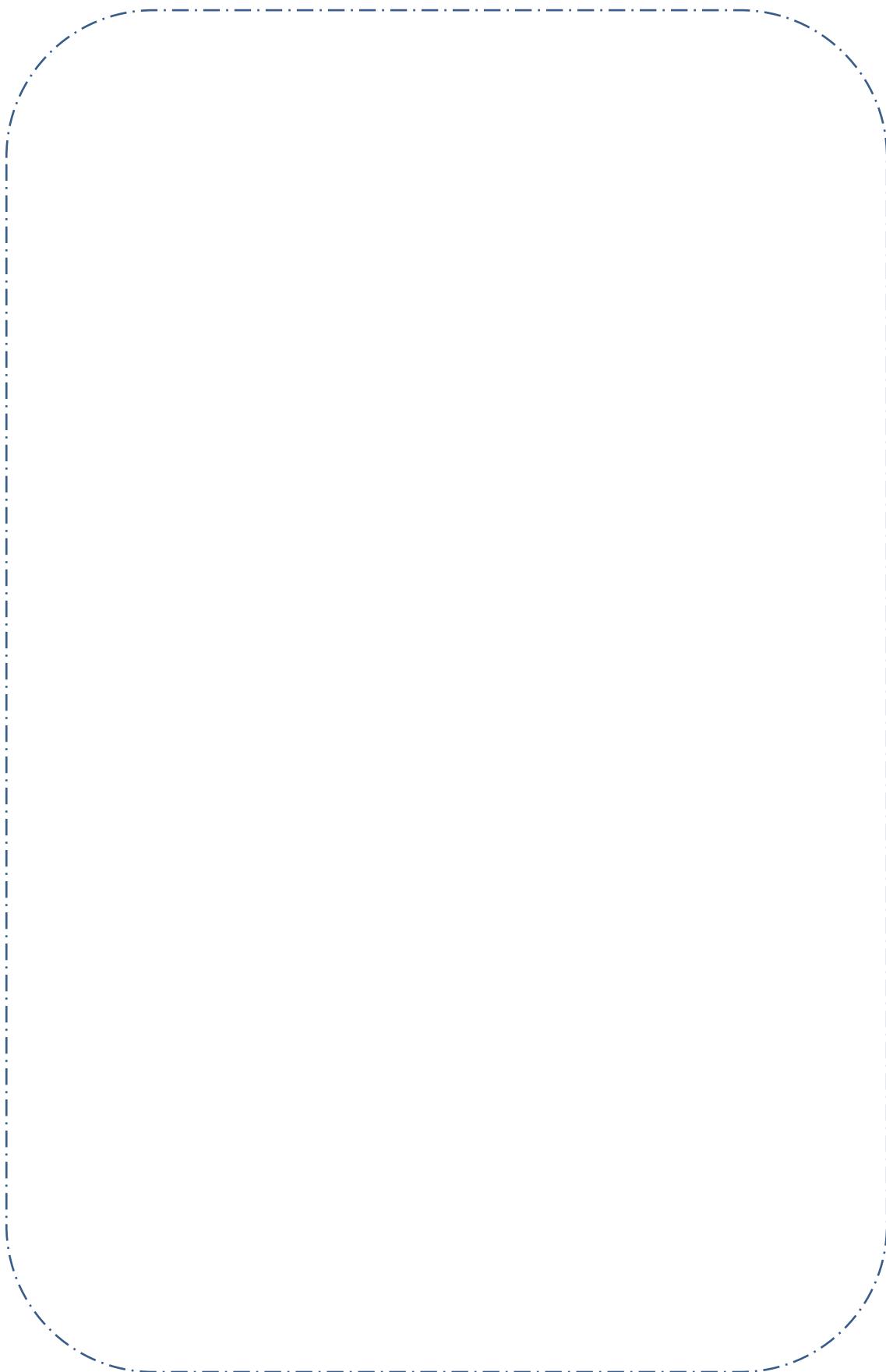
すまむに（方言）を 話す大会



)

2日目

大会宣言



令和7年度 危機的な状況にある言語・方言サミット（八重山大会） 大会宣言

今、日本国内では8か所以上で言語・方言の消滅が危機的な状況にあります。

スマムニ（島の方言）は地域の伝統行事や年中行事等で使われる大切な言葉です。

スマムニを学ぶことは自分たちの住んでいる地域を知ることにもつながります。

私たちは世代を超えて脈々と伝えられてきた地域の方言を学んで語り合うことで
伝統文化の継承と発展に寄与することをここに宣言します。

一 スマムニ バスキカ ウヤバスキン ウヤバスキカ スマバスキン デ

アルフンニヤーヒ ツネヒージガラ スマムヌユ イジハラ バーデドウ
ウムイウルンユー

【方言を忘れると 生^まり島を忘れる 生^まり島を忘れると 親まで忘れると言われ
ま

す。日頃からスマムニ（方言）を大事にし、話すように心がけます。】

一 ケーランナローリ ムカスピトゥヌ アンコールムノ マムリイイコウラーラー

【私たちは先人たちが暮らしの中で培った言語・文化をしっかり語り継ぎます。】

一 ケーランナローリ ヤーニンジュウ マタ、 ドゥヌシウマヌピトゥ トゥ

マーゾン マリジウマヌ ムラングドゥユ マムリ ケーラーヒ ギバローラーラー

【私たちはスマムニ（方言）を家族や地域の方々と語り合い、地域の伝統文化の継承
に努めます。】

私たちはこの宣言に掲げたことを胸に 言語・方言の 灯^{ともしび}を消すことなく次世代へ
と継承しバトンをつないでいくことを誓います。

令和7年10月26日

令和7年度

危機的な状況にある言語・方言サミット(八重山大会)
資料集

令和7年10月

文化庁国語課

100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

沖縄県

900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

石垣市

石垣市教育委員会

907-8501 沖縄県石垣市字真栄里 672

竹富町

竹富町教育委員会

907-8503 沖縄県石垣市美崎町 11-1

